

犯罪統計書

静岡県 の犯罪

令和元年

静岡県警察本部

凡 例

- 1 この統計書は、犯罪統計規則（昭和40年9月16日 国家公安委員会規則第4号）及び犯罪統計細則（昭和46年10月6日警察庁訓令第16号）に基づき、令和元年中に県下各警察署から報告された犯罪統計原票をもとに、警察庁及び静岡県警察本部の電子計算システムにより分析集計した統計表を分類整理し、集録したものである。
- 2 本書の件数、人員の計上方法は、次のとおりである。
 - (1) 件 数
原則として被疑者の行為数によって計上している。ただし、1人が数件又は数人が数件の行為を犯した場合で、一定の条件に該当するときは、包括1件とする等の計上方法をとっている。
 - (2) 人 員
同一人が数罪を犯し、又は数人が数罪を犯した場合は、法定刑の最も重い罪（法定刑が同じときは主たる罪）につき、1人又は数人として計上している。
- 3 予備罪等の一定の犯罪については、次のような計上方法をとっている。
 - (1) 未遂罪及び予備罪は、それぞれの既遂の本罪に含めている。（殺人予備罪を除く。）
 - (2) 盗犯等ノ防止及処分ニ関スル法律第2条、3条及び第4条に規定する犯罪は、その行為態様に応じ強盗又は窃盗の罪に含めている。
 - (3) 暴力行為等処罰ニ関スル法律第1条、第1条ノ2及び第1条ノ3に規定する罪は、その行為態様に応じ暴行、傷害、脅迫又は器物損壊の罪に含めている。
- 4 本書における用語等の意義は、次のとおりである。
 - (1) 刑 法 犯 刑法（交通関係の業務上過失致死傷を除く。）、爆発物取締罰則、決闘罪ニ関スル件、暴力行為等処罰ニ関スル法律、盗犯等ノ防止及処分ニ関スル法律、航空機の強取等の処罰に関する法律、火炎びんの使用等の処罰に関する法律、航空の危険を生じさせる行為等の処罰に関する法律、人質による強要行為等の処罰に関する法律、流通食品への毒物の混入等の防止等に関する特別措置法、サリン等による人身被害の防止に関する法律、組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制等に関する法律、公職にある者等のあせん行為による利得等の処罰に関する法律及び公衆等脅迫目的の犯罪行為のための資金提供等の処罰に関する法律に規定する罪をいう。
 - (2) 特 別 法 犯 刑法犯及び交通法令違反以外の罪（条例に規定するものを含む。）をいう。
 - (3) 包 括 罪 種 刑法犯のうち、被害法益、犯罪態様等の観点から類似性の強い罪種を包括した分類名称をいう。
なお、包括罪種の名称及び内訳罪名は、別表のとおりである。
 - (4) 重要犯罪・重要窃盗犯 治安情勢を観察する場合において、統計上、その指標となる犯罪として掲げるものをいう。
 - ア 重要犯罪…殺人、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買及び強制わいせつの各罪種をいう。
 - イ 重要窃盗犯…窃盗犯のうち侵入窃盗、自動車盗、ひったくり及びすりの各手口をいう。
 - (5) 認 知 件 数 警察において発生を認知した事件の数をいう。
 - (6) 検 挙 件 数 警察において検挙した事件（解決事件を含む。）を送致、送付又は微罪の処分をした件数をいう。
 - (7) 解 決 件 数 検挙警察署を問わず自署で認知した事件を検挙し処理した件数をいう。
 - (8) 検 挙 人 員 警察において検挙した事件の被疑者（解決事件に係る者を除く。）の数をいう。
 - (9) 補 導 人 員 警察において触法少年として補導した少年の数をいう。

- (10) 解決事件 刑法犯として認知され、既に統計上計上されている事件であって、これを捜査した結果、刑事責任無能力者の行為であること、基本事実がないこと、その他の理由により犯罪が成立しないこと又は訴訟条件・処罰条件を欠くことが確認された事件をいう。
- (11) 犯罪少年 犯行時及び処理時の年齢が14歳以上20歳未満の少年をいう。
- (12) 触法少年 刑罰法令に触れる行為をした小学校就学年齢以上14歳未満の少年（ただし、殺人、放火、傷害又は強制わいせつに当たる行為を行った未就学児童を含む。）をいう。
- (13) 既届(事件) 犯罪発生について、警察が認知する以前に、被害者又はその代理人等から自発的に警察に対し届出があったこと（事件）をいう。
- (14) 成人事件・少年事件・成人少年共犯事件 成人事件とは20歳以上の者が犯した事件を、少年事件とは14歳以上20歳未満の者が犯した事件をいい、両者の共犯事件を成人少年共犯事件という。
- (15) 特別な名称について
- ア 嬰児殺…1歳未満の乳児を殺害（未遂を含む。）したものをいう。
- イ 侵入窃盗…犯罪手口資料取扱細則（昭和57年2月18日警察庁訓令第2号）別表第2「犯罪手口分類基準表」にいう侵入窃盗をいう。
- ウ 乗り物盗…犯罪手口分類基準表にいう自動車盗・オートバイ盗・自転車盗をいう。
- エ 非侵入窃盗…侵入窃盗及び乗り物盗を除いた窃盗をいう。
- オ 検挙率…認知件数に対する検挙件数（解決事件を含む。）の割合を百分比（%）で表したものをいう。

$$\frac{\text{検挙件数（解決事件を含む。）}}{\text{認知件数}} \times 100$$
- カ 犯罪率…人口千人に対する犯罪の認知件数の割合をいう。（人口は、平成31年1月1日現在の住民基本台帳人口による。）
- キ 負担率…警察官1人当たりに対する犯罪の認知件数の割合をいう。
- ク 来日外国人…我が国にいる外国人のうち、いわゆる定着居住者（永住権を有する者等）、在日米軍関係者及び在留資格不明者以外の者をいう。
- ケ 他機関引継…出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）違反の被疑者につき同法第62条
 件数・人員 第2項の規定により入国審査官若しくは入国警備官への通報をしたとき又は同法第65条第1項の規定により入国警備官への身柄の引渡しをしたものをいう。

5 警察署再編に伴い

- ・水窪警察署は、平成19年3月31日まで
- ・蒲原警察署は、平成20年3月31日まで
- ・森警察署は、平成23年3月31日まで
- ・松崎警察署は、平成25年3月31日まで
- ・袋井警察署は、平成23年4月1日から
- ・裾野警察署は、平成25年4月1日から
- ・浜松西警察署は、平成31年4月1日から

の数値をそれぞれ計上している。

6 その他

- (1) この統計書に使用されている年次は、すべて暦年である。
- (2) 符号「-」は、皆無又は該当数字のないもの。
- (3) この統計書の図表における構成比については、四捨五入の関係で、合計の数値と内訳の数値の計が一致しない場合がある。

別 表

包括罪種・罪種の名称及び内訳罪名一覧表

(包括罪種)	(罪 種)	(内 訳 罪 名)
凶悪犯	殺	人……殺人罪、嬰兒殺、殺人予備罪、自殺関与罪
	強盗	盗……強盗殺人罪（致死を含む。）、強盗傷人罪、強盗強制性交等罪 （致死を含む。）強盗罪、準強盗罪（事後強盗、昏睡強盗）
	放火	火……放火罪、消火妨害罪
	強制性交等	……強制性交等罪、強制性交等致死傷罪、集団強制性交等罪、 集団強制性交等致死傷罪
粗暴犯	凶器準備集合	……凶器準備集合罪、凶器準備結集罪
	暴行	……暴行罪
	傷害	……傷害罪、傷害致死罪、現場助勢罪
	脅迫	……脅迫罪、強要罪
	恐喝	……恐喝罪
窃盗犯	窃 盗	
知能犯	詐欺	……詐欺罪、準詐欺罪
	横領	……横領罪、業務上横領罪
	偽造	……通貨偽造罪、文書偽造罪、支払用カード偽造罪、有価証券偽造罪、 印章偽造罪
	汚職	……賄賂罪（収賄罪・贈賄罪）、職権濫用罪（致死傷を含む。）
	あっせん利得	……あっせん利得罪、利益供与罪
	背任	……背任罪
風俗犯	賭博	……普通賭博罪、常習賭博罪、賭博開張等罪
	わいせつ	……強制わいせつ罪（致死傷を含む。）、公然わいせつ罪、わいせつ物頒布等罪
その他の刑法犯	—————	上記以外の刑法犯 （占有離脱物横領罪、公務執行妨害罪、住居侵入罪、器物損壊罪等）

※ 刑法等の一部を改正する法律が平成29年7月13日より施行されたことにより、強姦から強制性交等へ変更となった。

令和元年 静岡県 の 犯罪

目 次

凡 例

令和元年の犯罪概況

第1 刑 法 犯	1
1 認 知 状 況	1
(1) 刑 法 犯 総 括	1
(2) 重 要 犯 罪	3
(3) 重 要 窃 盗 犯	5
(4) 罪種別にみた認知状況	7
ア 凶 悪 犯	7
イ 粗 暴 犯	9
ウ 窃 盗 犯	11
(ア) 侵 入 窃 盗	13
(イ) 乗 り 物 盗	14
(ウ) 非 侵 入 窃 盗	15
エ 知 能 犯	16
オ 風 俗 犯	18
カ その他の刑法犯	20
(5) 警察署別 認知状況	22
(6) 月別 発生状況	24
(7) 曜日別 発生状況	25
(8) 時間帯別 発生状況	26
2 犯罪の被害状況	28
(1) 死 傷 者	28
(2) 財産犯の被害	29
3 検 挙 状 況	30
(1) 重 要 犯 罪	30
(2) 重 要 窃 盗 犯	32
(3) 包括罪種別にみた検挙状況	34
ア 凶 悪 犯	34
イ 粗 暴 犯	34
ウ 窃 盗 犯	35
エ 知 能 犯	35

オ風俗犯	36
(4) 犯行の動機・原因別検挙状況	36
第2 特別法犯	37
第3 少年犯罪	40
1 犯罪少年	40
(1) 刑法犯検挙状況	40
(2) 刑法犯犯罪少年の年齢・学職別状況	42
(3) 特別法犯検挙状況	43
2 触法少年	44
(1) 刑法犯補導状況	44
(2) 特別法犯補導状況	45
第4 暴力団犯罪	46
1 暴力団犯罪検挙状況	46
2 包括罪種別検挙状況	47
3 特別法犯主要違反法令別検挙状況	48
第5 覚醒剤事犯	49
1 覚醒剤事犯検挙状況	49
2 男女別検挙状況	50
3 少年検挙状況	50
第6 来日外国人犯罪	51
第7 刑法犯統計表	
総合表	
1 罪種別 認知・解決・検挙件数及び検挙・補導人員	53
2 窃盗手口別 認知・検挙件数及び検挙・補導人員	55
3 殺人・強盗・恐喝・詐欺・性的犯罪手口別 認知・検挙件数及び検挙・補導人員	56
4 警察署別 認知・検挙件数及び検挙・補導人員	57
5 罪種別 警察署別 認知件数	58
6 罪種別 警察署別 検挙件数	59
7 罪種別 警察署別 検挙人員	60
8 罪種別 警察署別 犯罪少年検挙人員	61
9 罪種別 警察署別 触法少年 補導人員	62
10 罪種別 認知・検挙件数（前年比較）	63
11 罪種別 検挙・補導人員（前年比較）	64
12 警察署別 認知・検挙件数（前年比較）	65
13 警察署別 検挙・補導人員（前年比較）	66
14 罪種別 月別 認知・検挙件数	67

15	罪種別 月別 検挙・補導人員	69
認知・検挙状況表		
16	包括罪種別 警察署別 認知件数（前年比較）	71
17	窃盗犯 警察署別 認知・検挙件数	73
18	窃盗手口別 警察署別 認知・検挙件数	74
19	罪種別 認知の端緒別 認知件数	81
20	窃盗手口別 認知の端緒別 認知件数	82
21	罪種別 月別 発生件数	83
22	窃盗手口別 月別 発生件数	84
23	罪種別 時間帯・曜日別 発生件数	85
24	窃盗手口別 時間帯・曜日別 発生件数	86
25	罪種別 発生場所別 認知件数	87
26	窃盗手口別 発生場所別 認知件数	90
27	財産犯 被害額・被害回復額及び被害品別 認知・解決件数	93
28	財産犯 警察署別 被害額・被害回復額及び回復率	96
29	財産犯 被害程度別 認知件数	97
30	窃盗手口別 被害程度別 認知件数	98
31	罪種別 被害者の職業別 認知件数	100
32	罪種別 被害者の年齢・性別 認知件数	103
33	罪種別 被害者の世帯構成別 認知件数	105
34	侵入強盗・侵入窃盗 侵入手段別 認知件数	106
35	器物損壊 損壊器物・損壊状況別 認知件数	107
36	特定罪種別 犯罪供用物別 認知件数	108
37	特定罪種別 犯罪供用物別 検挙件数	109
38	罪種別 主たる被疑者の犯行時の年齢別 検挙件数	110
39	窃盗手口別 主たる被疑者の犯行時の年齢別 検挙件数	111
40	罪種別 被疑者と被害者との関係別 検挙件数	112
41	罪種別 主たる被疑者特定の端緒別 検挙件数（警察活動）	113
42	罪種別 主たる被疑者特定の端緒別 検挙件数（民間協力等）	114
43	窃盗手口別 主たる被疑者特定の端緒別 検挙件数（警察活動）	115
44	窃盗手口別 主たる被疑者特定の端緒別 検挙件数（民間協力等）	116
45	罪種別 主たる被疑者特定の端緒を得た係別 検挙件数	117
46	窃盗手口別 主たる被疑者特定の端緒を得た係別 検挙件数	118
47	罪種別 主たる被疑者の逃走時の交通手段別 検挙件数	119
48	窃盗手口別 主たる被疑者の逃走時の交通手段別 検挙件数	120
49	罪種別 成人・少年事件及び共犯形態別 検挙件数	121

50	窃盗手口別 成人・少年事件及び共犯形態別 検挙件数	122
51	罪種別 犯行の動機・原因別 検挙件数	123

被疑者状況表

52	罪種別 年齢別 検挙・補導人員	125
53	窃盗手口別 年齢別 検挙・補導人員	127
54	包括罪種別 犯行時の居住地（市区町）別 検挙人員	129
55	罪種別 犯行時の職業別 検挙人員	131
56	窃盗手口別 犯行時の職業別 検挙人員	134
57	罪種別 精神障害等の有無別 検挙人員	137
58	罪種別 身柄措置・送致別 検挙人員	138
59	窃盗手口別 身柄措置・送致別 検挙人員	139
60	罪種別 初犯者・再犯者及び再犯者の前回処分別 検挙人員	140
61	罪種別 前科数別 検挙人員（成人）	142
62	窃盗手口別 前科数別 検挙人員（成人）	143
63	罪種別 被疑者特定の端緒を得た係別 検挙人員	144
64	窃盗手口別 被疑者特定の端緒を得た係別 検挙人員	145

少年関係表

65	罪種別 学職別 犯罪・触法少年 検挙・補導人員	147
66	窃盗手口別 学職別 犯罪・触法少年 検挙・補導人員	149
67	包括罪種（手口）別 非行時間帯別 犯罪・触法少年 検挙・補導人員	151
68	非行の動機・原因別 犯罪少年 検挙人員（直接の動機・原因）	152
69	非行の動機・原因別 犯罪少年 検挙人員（背景、父親・母親の態度等）	153
70	非行の動機・原因別 触法少年 補導人員（直接の動機・原因）	154
71	非行の動機・原因別 触法少年 補導人員（背景、父親・母親の態度等）	155
72	非行場所別 犯罪少年 検挙人員	156
73	非行場所別 触法少年 補導人員	157
74	両親の状態・母の不在状況 犯罪少年 検挙人員	158
75	両親の状態・母の不在状況 触法少年 補導人員	160
76	在学・学歴別 犯罪少年 検挙人員	162
77	罪種別 被疑者特定の端緒を得た係別 犯罪少年 検挙人員	163
78	窃盗手口別 被疑者特定の端緒を得た係別 犯罪少年 検挙人員	164
79	補導歴・非行歴別 犯罪少年 検挙人員	165
80	補導歴・非行歴別 触法少年 補導人員	166

第8 特別法犯統計表

81	違反法令別 検挙件数及び検挙人員等（前年比較）	167
82	違反法令別 年齢・少年学職別 検挙・補導人員	168

83	違反法令別 警察署別 検挙件数及び検挙人員	170
84	麻薬・あへん・大麻・覚醒剤事犯 検挙状況	173
85	銃砲刀剣類所持等取締法違反 検挙状況	174
86	風営適正化法違反等 検挙状況	175
87	売春関係事犯 検挙状況	176
88	少年の福祉を害する犯罪 違反法令別 検挙状況	177
第9 暴力団犯罪統計表		
89	暴力団犯罪 罪種別 警察署別 検挙件数及び検挙人員	179
90	暴力団犯罪 違反法令別 警察署別 検挙件数及び検挙人員	180
第10 外国人犯罪統計表		
91	外国人犯罪 警察署別 罪種・違反法令別 検挙件数及び検挙人員(来日外国人)	181
92	外国人犯罪 国籍 罪種・違反法令別 検挙件数及び検挙人員(来日外国人)	182
93	外国人犯罪 警察署別 国籍別 検挙件数及び検挙人員(来日外国人)	183
94	外国人犯罪 警察署別 国籍別 入管法違反 他機関引継被疑者取扱人員(来日外国人)	184
第11 参 考 資 料		
95	刑法犯 認知件数(都道府県別)	185
96	都道府県別 重要犯罪 認知・検挙状況(全国順位)	186
97	都道府県別 重要窃盗犯 認知・検挙状況(全国順位)	187
98	重要犯罪 警察署別 年次別 認知・検挙状況	188
99	重要窃盗犯 警察署別 年次別 認知・検挙状況	189
100	刑法犯 警察署別 年次別 認知・検挙状況	190
101	窃盗犯 警察署別 年次別 認知・検挙状況	191
102	特別法犯 警察署別 年次別 検挙状況	192
103	過去30年間における刑法犯・窃盗犯の認知・検挙状況	193

令和元年の犯罪概況

令和元年の犯罪概況

第1 刑 法 犯

1 認 知 状 況

(1) 刑 法 犯 総 括

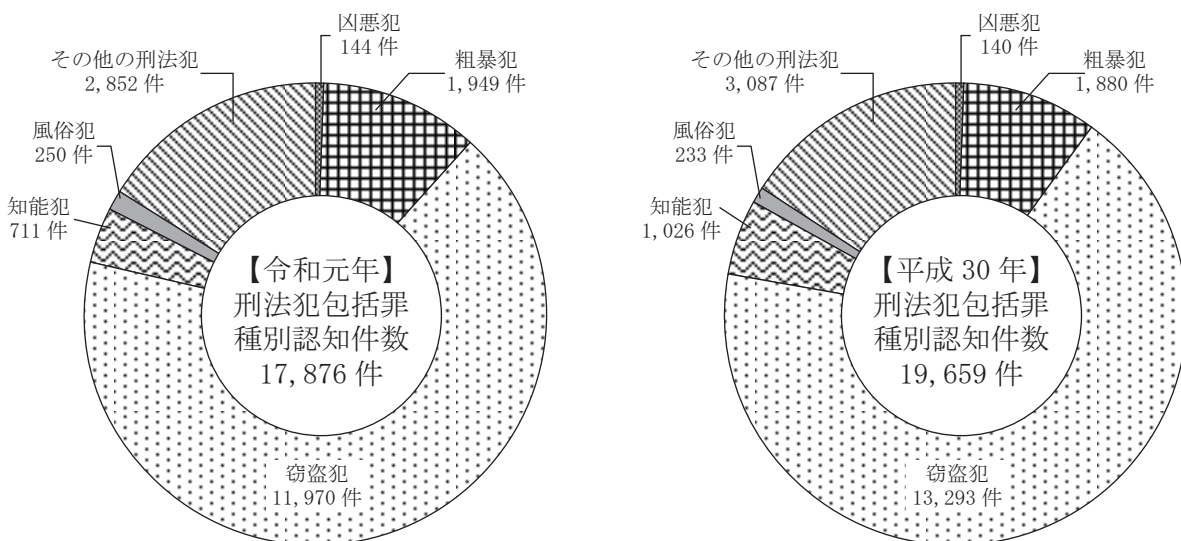
本年中に発生を認知した刑法犯の件数は17,876件である。

これを包括罪種別にみると、第1表のとおり、窃盗犯が11,970件で全体の67.0%を占めている。以下、粗暴犯1,949件（10.9%）、知能犯711件（4.0%）、風俗犯 250件（1.4%）、凶悪犯144件（0.8%）の順となっている。

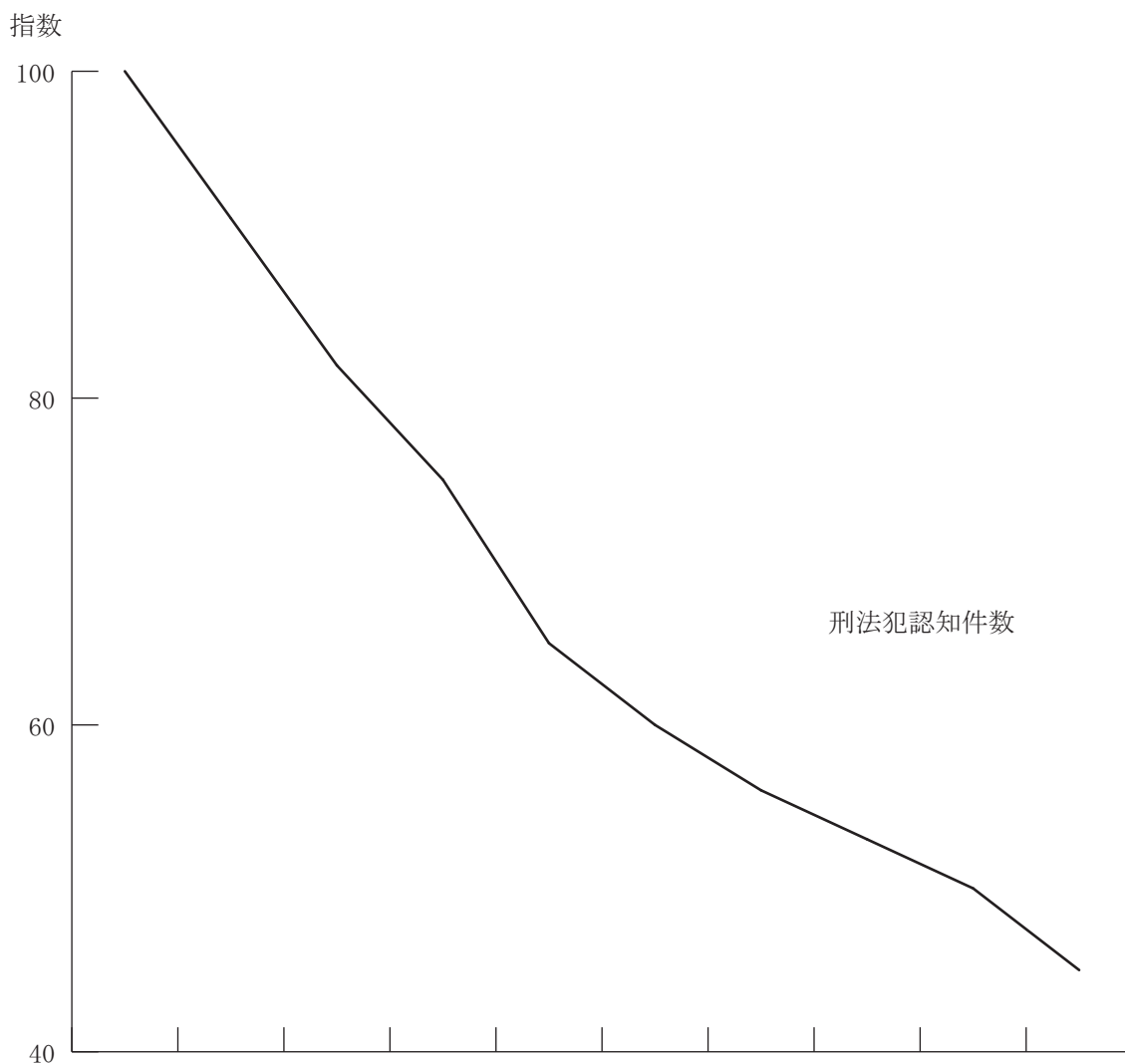
第1表 刑法犯包括罪種別認知件数表（前年比較）

罪 種	令和元		平成30		増 減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	%
総 数	17,876	100.0	19,659	100.0	-1,783	-9.1
凶 悪 犯	144	0.8	140	0.7	4	2.9
粗 暴 犯	1,949	10.9	1,880	9.6	69	3.7
窃 盗 犯	11,970	67.0	13,293	67.6	-1,323	-10.0
知 能 犯	711	4.0	1,026	5.2	-315	-30.7
風 俗 犯	250	1.4	233	1.2	17	7.3
その他の刑法犯	2,852	16.0	3,087	15.7	-235	-7.6

過去10年間における刑法犯認知件数の推移は、第1図のとおりである。



第1図 刑法犯認知件数の推移（10年間）



年次	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令元
刑法犯認知件数	(100) 39,451	(91) 35,900	(82) 32,396	(75) 29,395	(65) 25,601	(60) 23,480	(56) 22,097	(53) 20,869	(50) 19,659	(45) 17,876

注 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

(2) 重要犯罪（殺人、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買及び強制わいせつ）

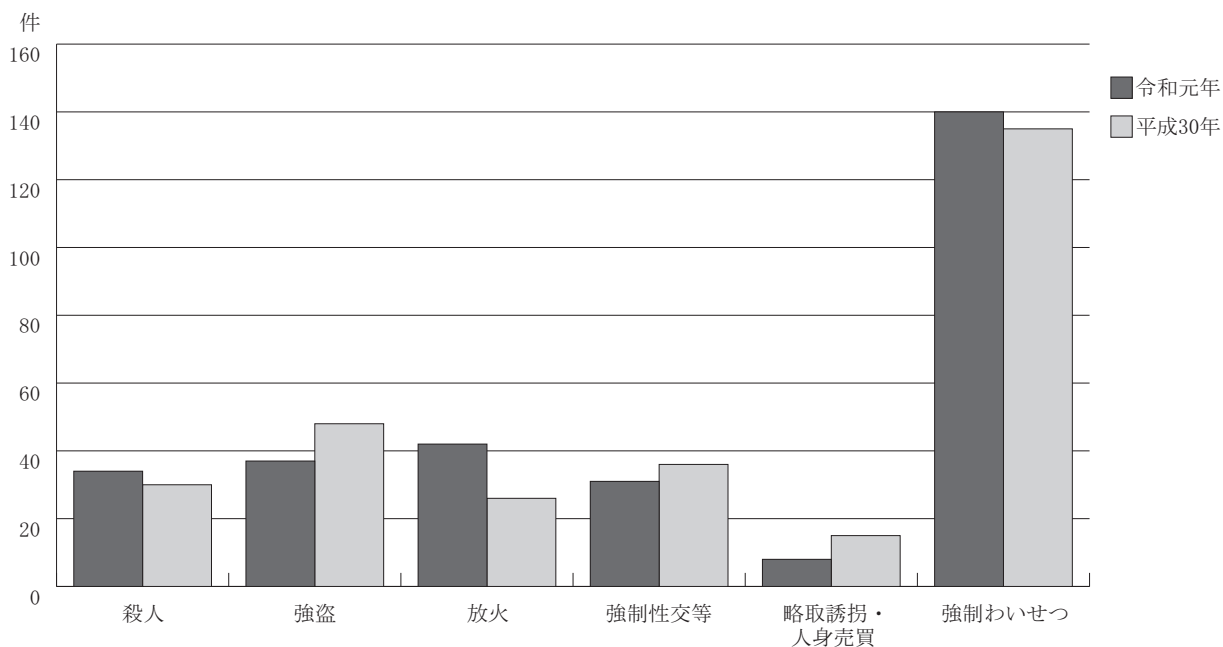
本年中の重要犯罪の認知件数は292件で、対前年比2件（0.7%）増加した。

罪種別認知件数を前年と比べると、第2表のとおりで、「殺人」、「放火」、「強制わいせつ」、は増加し、「強盗」、「強制性交等」、「略取誘拐・人身売買」は減少した。

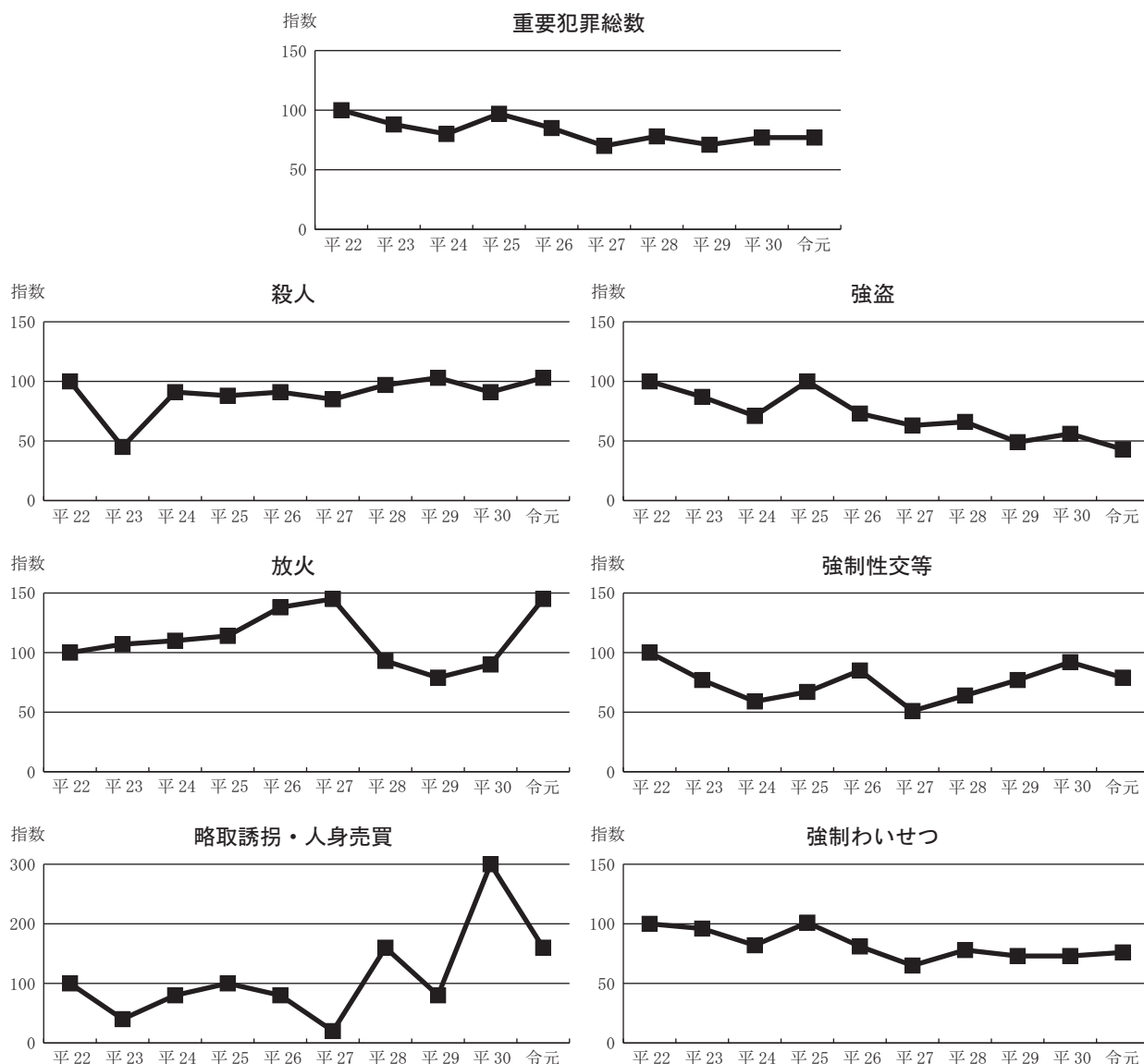
過去10年間における重要犯罪認知件数の推移は、第2図のとおりである。

第2表 重要犯罪認知件数表（前年比較）

罪種	令和元	平成30	増減	
			件数	%
総数	292	290	2	0.7
殺人	34	30	4	13.3
強盗	37	48	-11	-22.9
放火	42	26	16	61.5
強制性交等	31	36	-5	-13.9
略取誘拐・人身売買	8	15	-7	-46.7
強制わいせつ	140	135	5	3.7



第2図 重要犯罪認知件数の推移（10年間）



年次 総数・罪種	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
重要犯罪総数	(100) 377	(88) 330	(80) 301	(97) 365	(85) 320	(70) 265	(78) 293	(71) 268	(77) 290	(77) 292
殺人	(100) 33	(45) 15	(91) 30	(88) 29	(91) 30	(85) 28	(97) 32	(103) 34	(91) 30	(103) 34
強盗	(100) 86	(87) 75	(71) 61	(100) 86	(73) 63	(63) 54	(66) 57	(49) 42	(56) 48	(43) 37
放火	(100) 29	(107) 31	(110) 32	(114) 33	(138) 40	(145) 42	(93) 27	(79) 23	(90) 26	(145) 42
強姦性交等	(100) 39	(77) 30	(59) 23	(67) 26	(85) 33	(51) 20	(64) 25	(77) 30	(92) 36	(79) 31
略取誘拐・ 人身売買	(100) 5	(40) 2	(80) 4	(100) 5	(80) 4	(20) 1	(160) 8	(80) 4	(300) 15	(160) 8
強制わいせつ	(100) 185	(96) 177	(82) 151	(101) 186	(81) 150	(65) 120	(78) 144	(73) 135	(73) 135	(76) 140

注 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

(3) 重要窃盗犯（侵入窃盗、自動車盗、ひったくり及びすり）

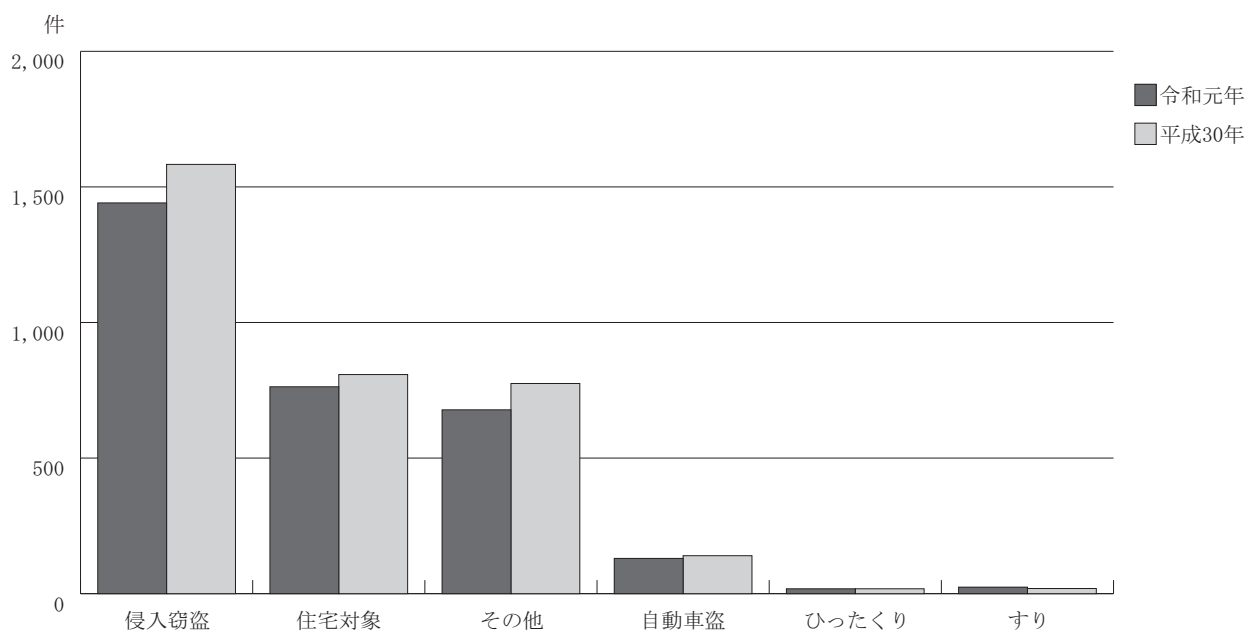
重要窃盗犯の認知件数は1,613件で、対前年比147件（8.4％）減少した。

手口別認知件数をみると、第3表のとおりで、「すり」が増加、「ひったくり」は同数「侵入窃盗」、「自動車盗」が減少した。

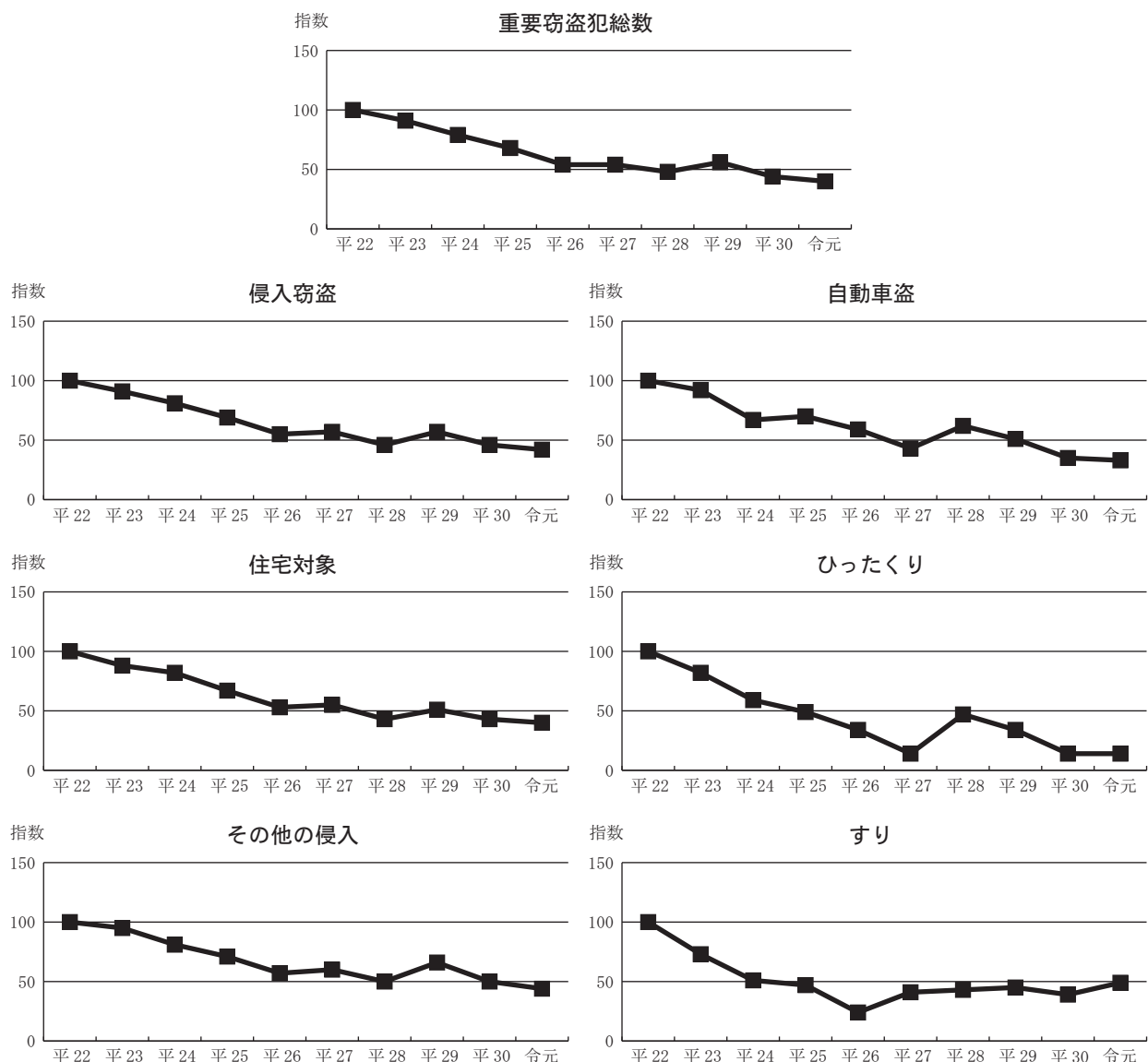
過去10年間における重要窃盗犯認知件数の推移は、第3図のとおりである。

第3表 重要窃盗犯認知件数表（前年比較）

手 口	令 和 元	平 成 30	増 減	
			件 数	%
総 数	1,613	1,760	-147	-8.4
侵 入 窃 盗	1,441	1,583	-142	-9.0
住 宅 対 象	763	808	-45	-5.6
そ の 他	678	775	-97	-12.5
自 動 車 盗	130	140	-10	-7.1
ひ っ た く り	18	18	-	-
す り	24	19	5	26.3



第3図 重要窃盗犯認知件数の推移（10年間）



年次 総数・手口	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
重要窃盗犯総数	(100) 4,021	(91) 3,645	(79) 3,176	(68) 2,739	(54) 2,189	(54) 2,174	(48) 1,912	(56) 2,245	(44) 1,760	(40) 1,613
侵入窃盗	(100) 3,445	(91) 3,135	(81) 2,807	(69) 2,376	(55) 1,901	(57) 1,967	(46) 1,586	(57) 1,978	(46) 1,583	(42) 1,441
住宅対象	(100) 1,894	(88) 1,658	(82) 1,559	(67) 1,276	(53) 1,011	(55) 1,038	(43) 805	(51) 958	(43) 808	(40) 763
その他の侵入	(100) 1,551	(95) 1,477	(81) 1,252	(71) 1,100	(57) 890	(60) 929	(50) 781	(66) 1,020	(50) 775	(44) 678
自動車盗	(100) 396	(92) 366	(67) 267	(70) 276	(59) 232	(43) 169	(62) 244	(51) 200	(35) 140	(33) 130
ひったくり	(100) 131	(82) 108	(59) 77	(49) 64	(34) 44	(14) 18	(47) 61	(34) 45	(14) 18	(14) 18
すり	(100) 49	(73) 36	(51) 25	(47) 23	(24) 12	(41) 20	(43) 21	(45) 22	(39) 19	(49) 24

注 () 内は、平成22年を100とした指数を示す。

(4) 罪種別にみた認知状況

刑法犯の主要罪種別の認知状況は、次のとおりである。

ア 凶 悪 犯

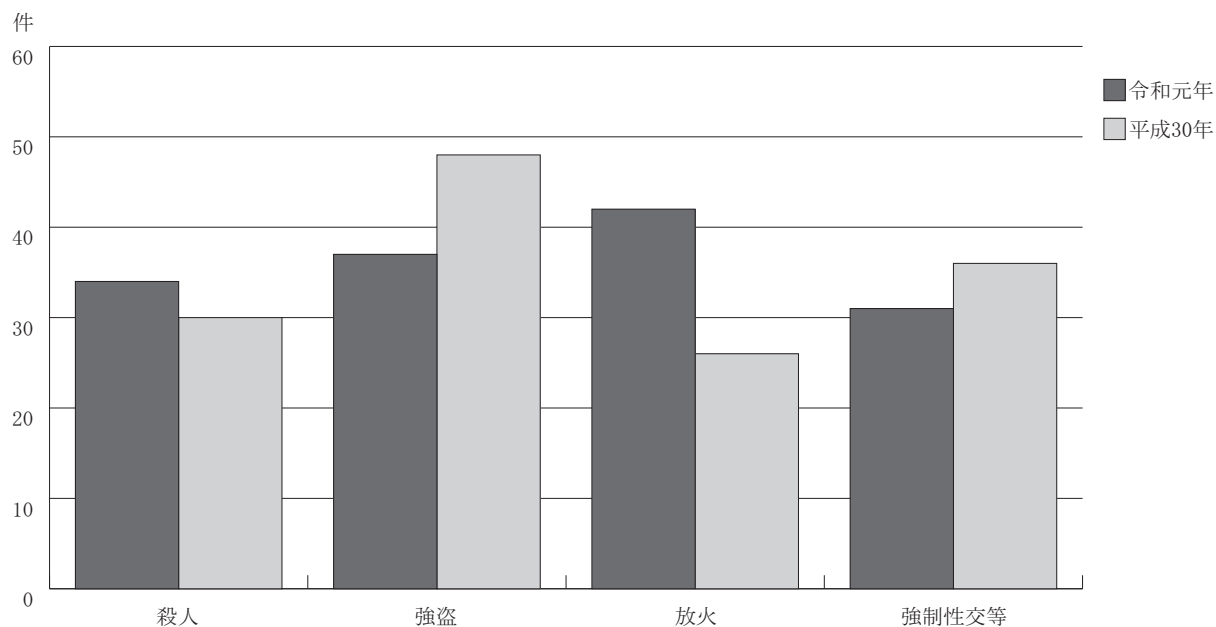
認知件数は144件で、対前年比4件（2.9%）増加した。

これを各罪種別にみると第4表のとおりで、「殺人」、「放火」が増加し「強盗」、「強制性交等」は減少した。

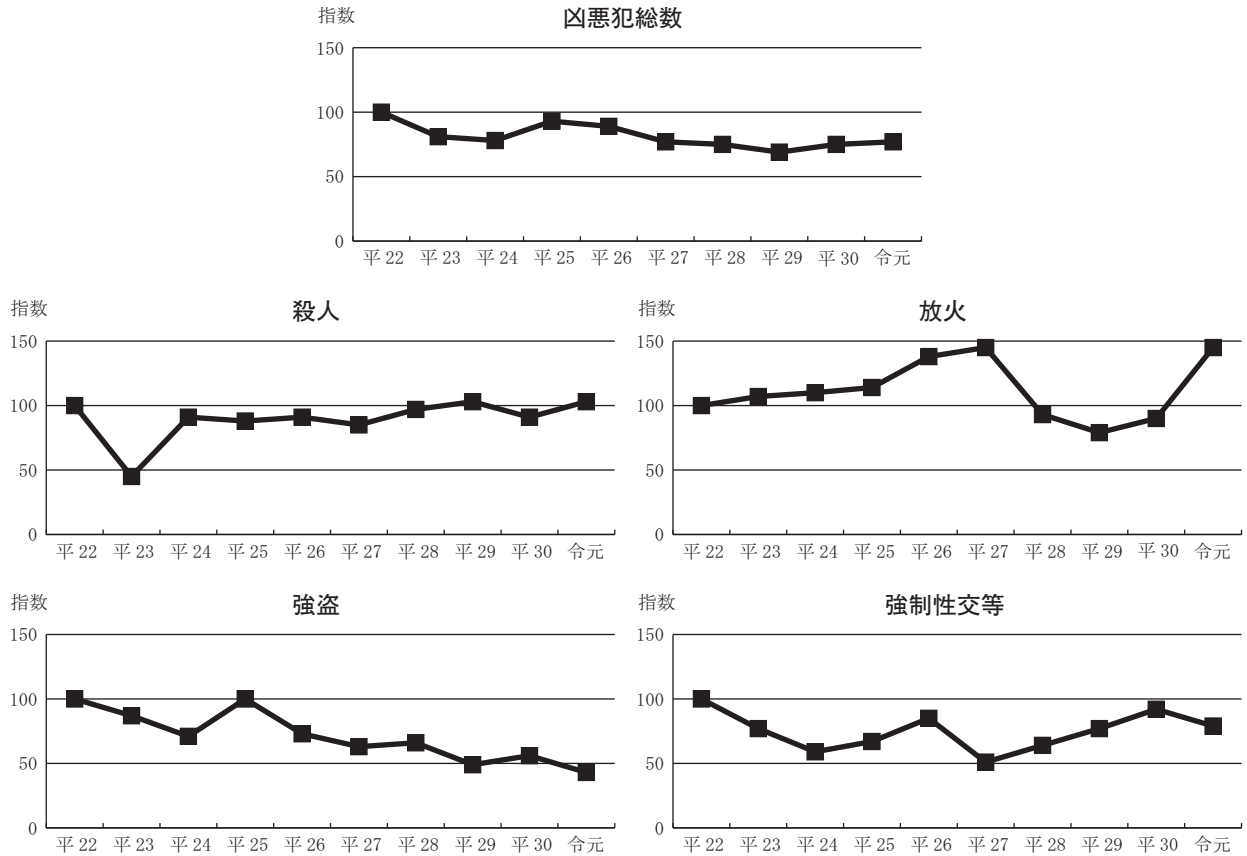
過去10年間における凶悪犯認知件数の推移は、第4図のとおりである。

第4表 凶悪犯認知件数表（前年比較）

罪 種	令 和 元	平 成 30	増 減	
			件 数	%
総 数	144	140	4	2.9
殺 人	34	30	4	13.3
強 盗	37	48	-11	-22.9
放 火	42	26	16	61.5
強 制 性 交 等	31	36	-5	-13.9



第4図 凶悪犯認知件数の推移（10年間）



年次 総数・罪種	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
凶悪犯総数	(100) 187	(81) 151	(78) 146	(93) 174	(89) 166	(77) 144	(75) 141	(69) 129	(75) 140	(77) 144
殺人	(100) 33	(45) 15	(91) 30	(88) 29	(91) 30	(85) 28	(97) 32	(103) 34	(91) 30	(103) 34
強盗	(100) 86	(87) 75	(71) 61	(100) 86	(73) 63	(63) 54	(66) 57	(49) 42	(56) 48	(43) 37
放火	(100) 29	(107) 31	(110) 32	(114) 33	(138) 40	(145) 42	(93) 27	(79) 23	(90) 26	(145) 42
強制性交等	(100) 39	(77) 30	(59) 23	(67) 26	(85) 33	(51) 20	(64) 25	(77) 30	(92) 36	(79) 31

注 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

イ 粗 暴 犯

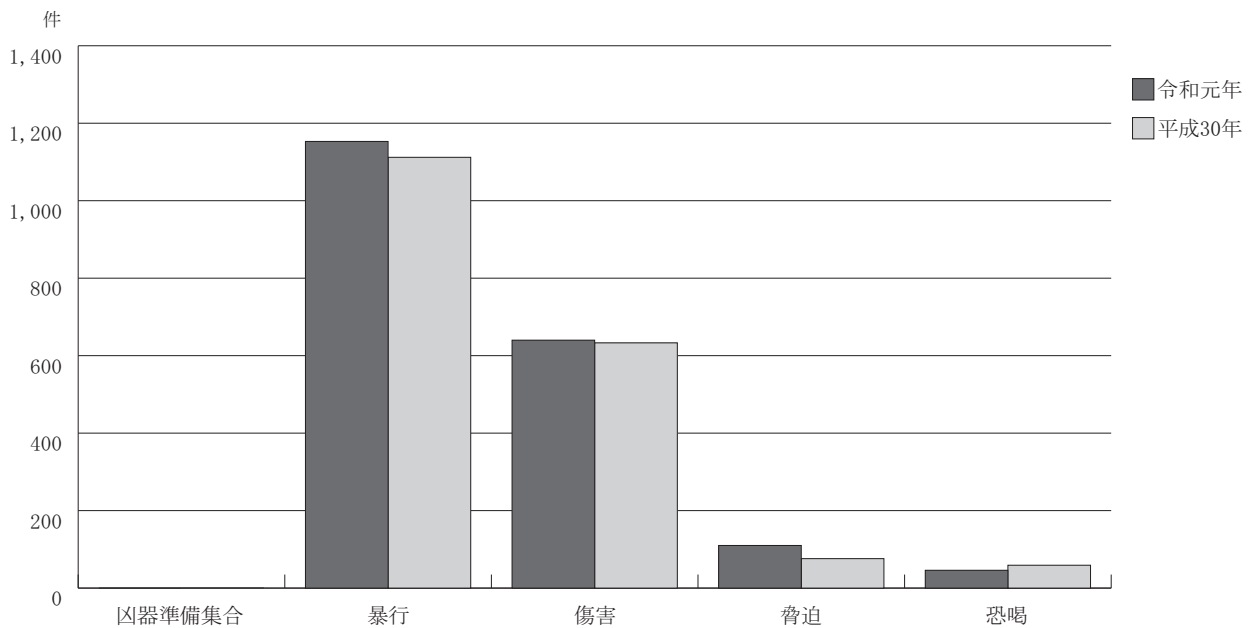
認知件数は1,949件で、対前年比 69件（3.7%）増加した。

これを各罪種別にみると第5表のとおりで、「暴行」、「傷害」、「脅迫」が増加し「恐喝」は減少した。

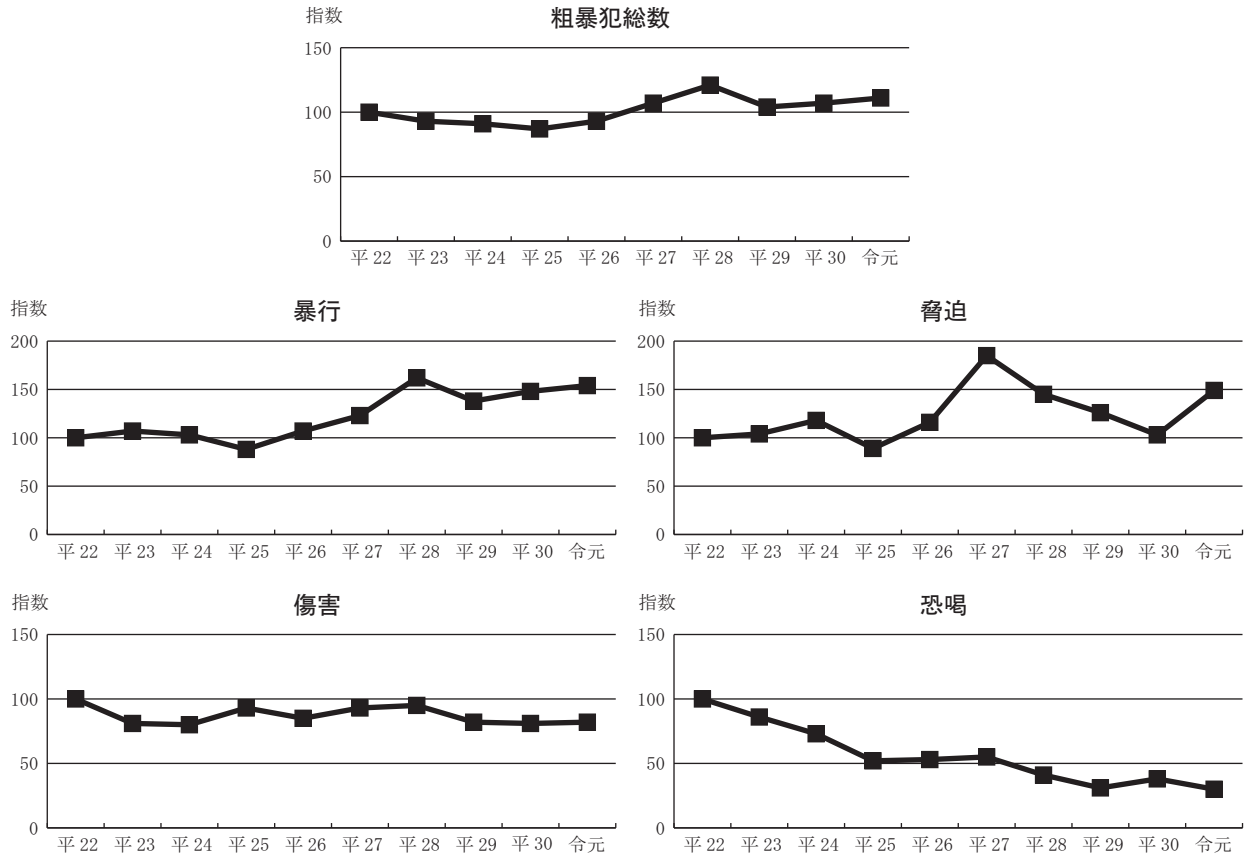
過去10年間における粗暴犯認知件数の推移は、第5図のとおりである。

第5表 粗暴犯認知件数表（前年比較）

罪 種	令 和 元	平 成 30	増 減	
			件 数	%
総 数	1,949	1,880	69	3.7
凶 器 準 備 集 合	—	—	—	—
暴 行	1,153	1,112	41	3.7
傷 害	640	633	7	1.1
脅 迫	110	76	34	44.7
恐 喝	46	59	-13	-22.0



第5図 粗暴犯認知件数の推移（10年間）



年次 総数・罪種	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
粗暴犯総数	(100) 1,757	(93) 1,642	(91) 1,597	(87) 1,530	(93) 1,629	(107) 1,874	(121) 2,126	(104) 1,821	(107) 1,880	(111) 1,949
うち) 暴行	(100) 750	(107) 802	(103) 772	(88) 657	(107) 800	(123) 926	(162) 1,215	(138) 1,038	(148) 1,112	(154) 1,153
うち) 傷害	(100) 779	(81) 630	(80) 626	(93) 727	(85) 661	(93) 727	(95) 741	(82) 642	(81) 633	(82) 640
うち) 脅迫	(100) 74	(104) 77	(118) 87	(89) 66	(116) 86	(185) 137	(145) 107	(126) 93	(103) 76	(149) 110
うち) 恐喝	(100) 154	(86) 133	(73) 112	(52) 80	(53) 82	(55) 84	(41) 63	(31) 48	(38) 59	(30) 46

注 () 内は、平成22年を100とした指数を示す。

ウ 窃 盗 犯

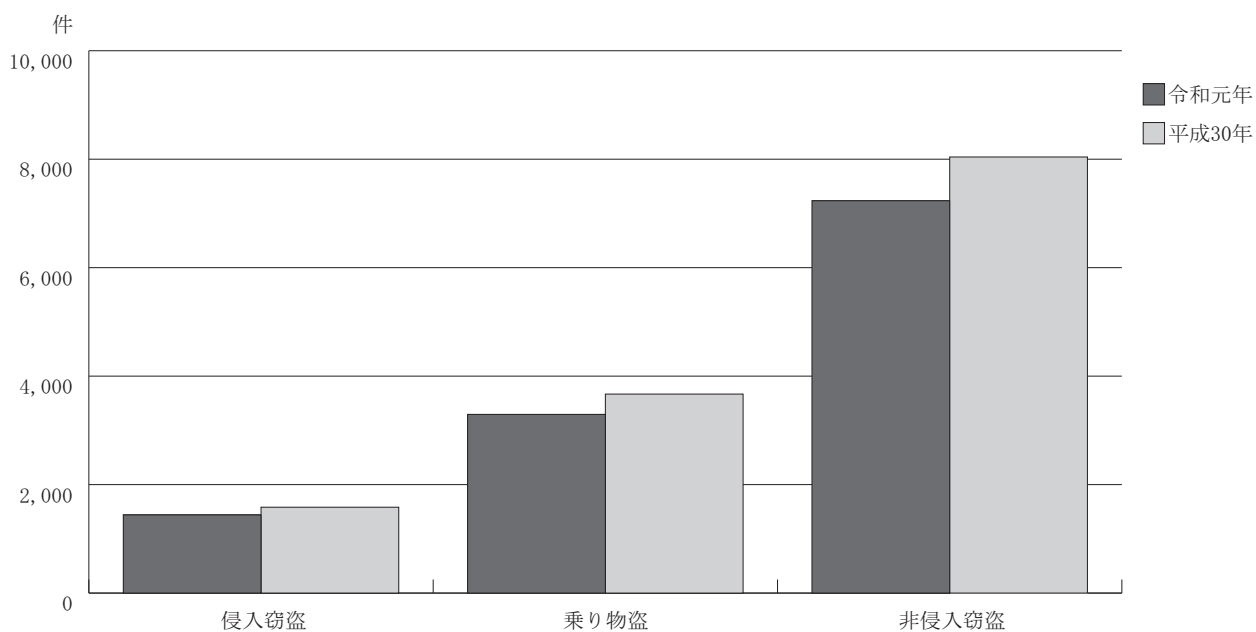
窃盗犯の認知件数は11,970件で、対前年比1,323件（10.0％）減少した。

これを手口別にみると第6表のとおりである。

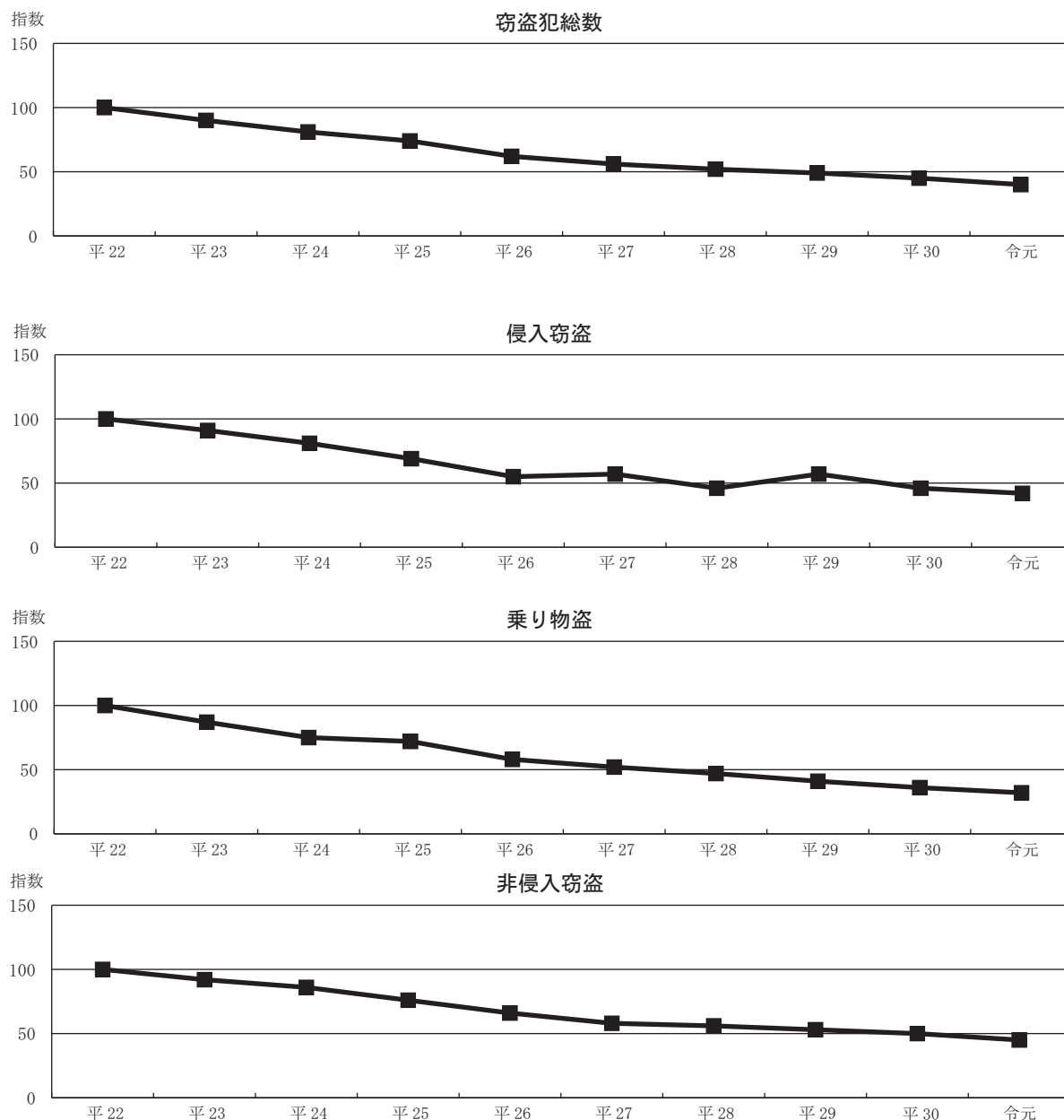
過去10年間における窃盗犯認知件数の推移は、第6図のとおりである。

第6表 窃盗犯認知件数表（前年比較）

手 口	令 和 元	平 成 30	増 減	
			件 数	%
総 数	11,970	13,293	-1,323	-10.0
侵 入 窃 盗	1,441	1,583	-142	-9.0
乗 り 物 盗	3,295	3,669	-374	-10.2
非 侵 入 窃 盗	7,234	8,041	-807	-10.0



第6図 窃盗犯認知件数の推移（10年間）



年次 総数・手口	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令元
窃盗犯総数	(100) 29,855	(90) 26,890	(81) 24,324	(74) 21,951	(62) 18,514	(56) 16,615	(52) 15,463	(49) 14,674	(45) 13,293	(40) 11,970
侵入窃盗	(100) 3,445	(91) 3,135	(81) 2,807	(69) 2,376	(55) 1,901	(57) 1,967	(46) 1,586	(57) 1,978	(46) 1,583	(42) 1,441
乗り物盗	(100) 10,273	(87) 8,912	(75) 7,699	(72) 7,373	(58) 5,912	(52) 5,350	(47) 4,803	(41) 4,172	(36) 3,669	(32) 3,295
非侵入窃盗	(100) 16,137	(92) 14,843	(86) 13,818	(76) 12,202	(66) 10,701	(58) 9,298	(56) 9,074	(53) 8,524	(50) 8,041	(45) 7,234

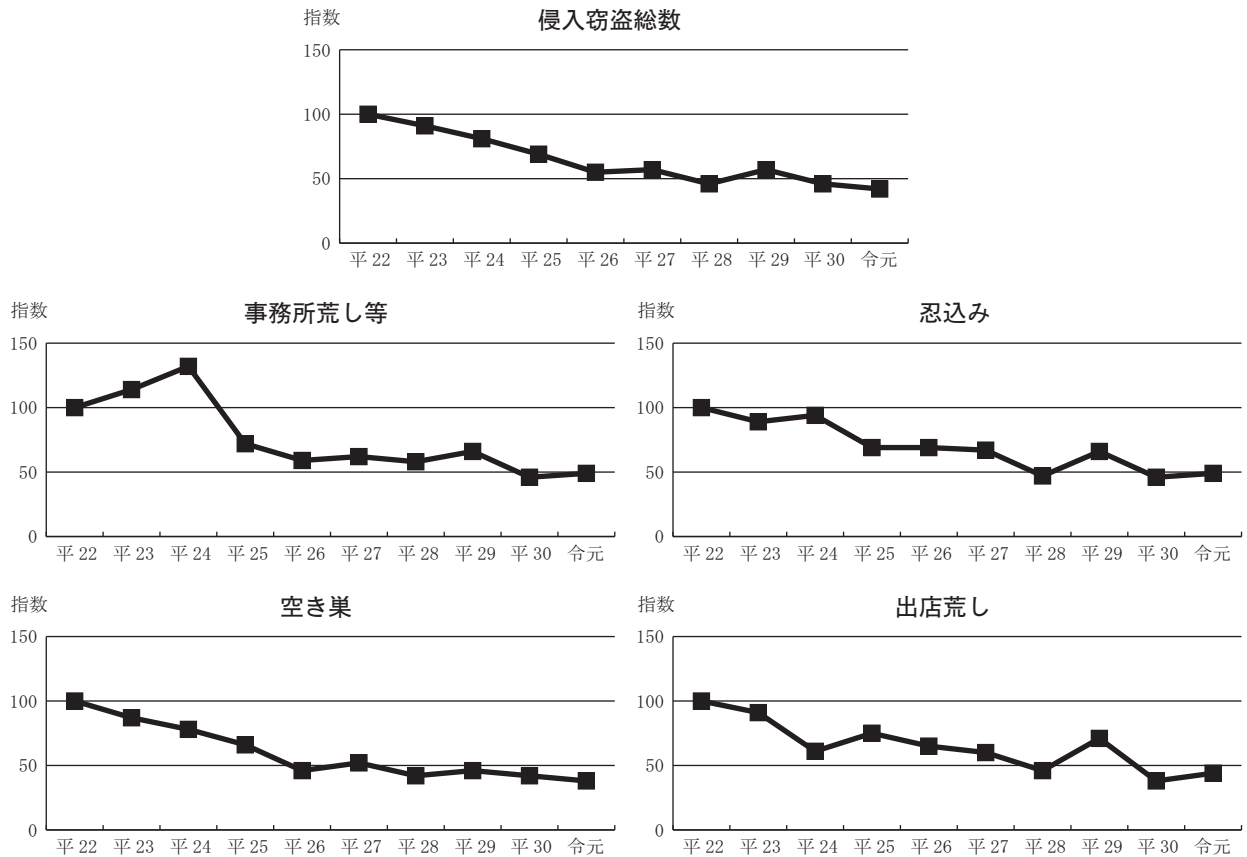
注 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

(ア) 侵入窃盗

侵入窃盗の認知件数は1,441件で、対前年比 142件 (9.0%) 減少した。

このうち件数の多い「事務所荒し等」、「空き巣」、「忍込み」及び「出店荒し」の4つの手口の推移は、第7図のとおりである。

第7図 侵入窃盗認知件数の推移 (10年間)



年次 総数・手口	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令元
侵入窃盗総数	(100) 3,445	(91) 3,135	(81) 2,807	(69) 2,376	(55) 1,901	(57) 1,967	(46) 1,586	(57) 1,978	(46) 1,583	(42) 1,441
うち) 事務所荒し等	(100) 383	(114) 435	(132) 505	(72) 276	(59) 227	(62) 239	(58) 221	(66) 251	(46) 177	(49) 186
うち) 空 き 巣	(100) 1,230	(87) 1,070	(78) 960	(66) 813	(46) 563	(52) 637	(42) 518	(46) 566	(42) 515	(38) 465
うち) 忍 込 み	(100) 546	(89) 486	(94) 511	(69) 377	(69) 379	(67) 364	(47) 256	(66) 358	(46) 251	(49) 267
うち) 出 店 荒 し	(100) 507	(91) 460	(61) 307	(75) 379	(65) 328	(60) 306	(46) 233	(71) 360	(38) 192	(44) 224

注1 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

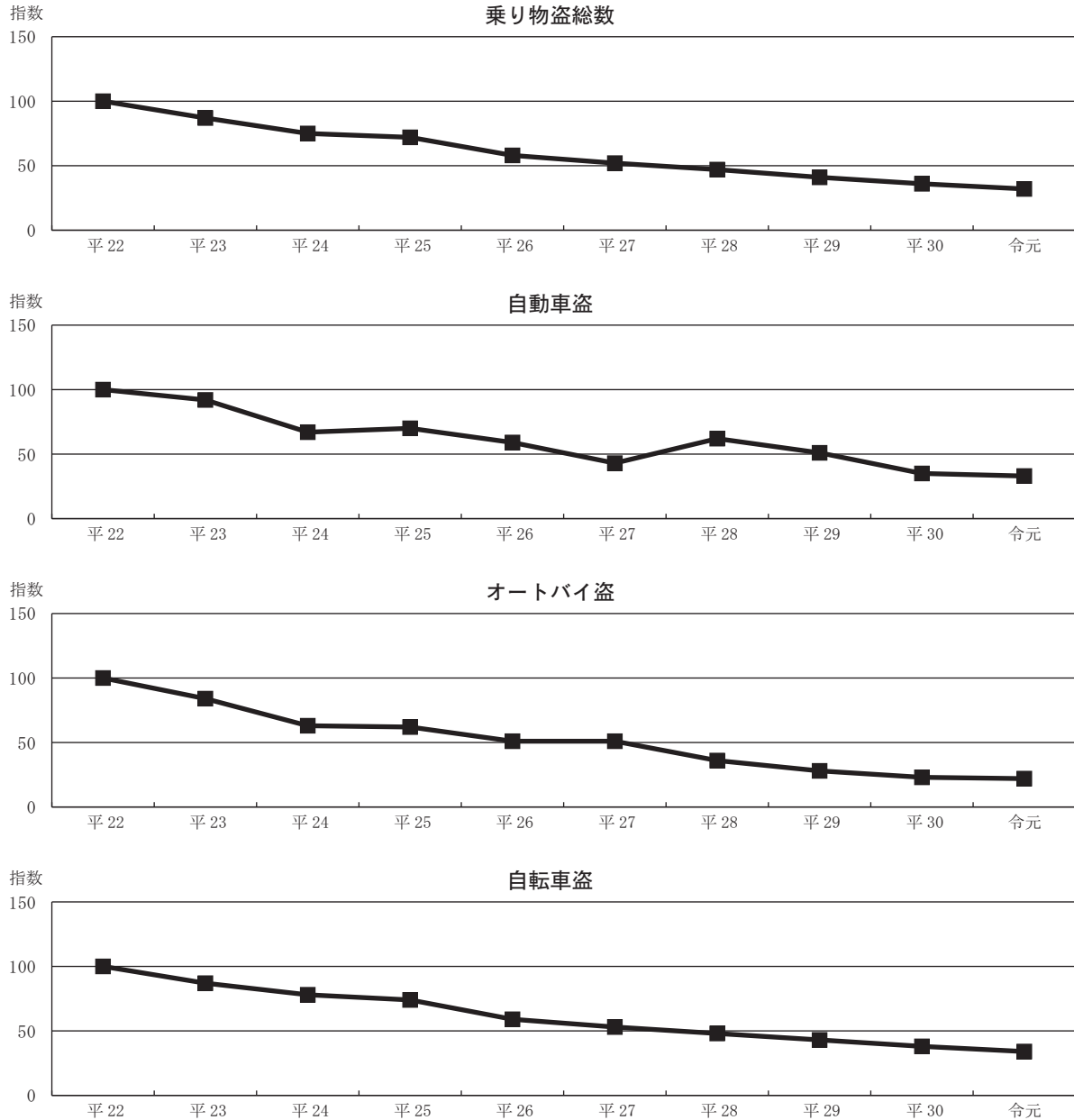
注2 事務所荒し等には、金庫破り、官公署荒しを含む。

(イ) 乗り物盗

乗り物盗の認知件数は3,295件で、対前年比374件（10.2%）減少した。

乗り物盗の総数と「自動車盗」、「オートバイ盗」及び「自転車盗」の推移は、第8図のとおりである。

第8図 乗り物盗認知件数の推移（10年間）



年次 総数・手口	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
乗り物盗総数	(100) 10,273	(87) 8,912	(75) 7,699	(72) 7,373	(58) 5,912	(52) 5,350	(47) 4,803	(41) 4,172	(36) 3,669	(32) 3,295
自動車盗	(100) 396	(92) 366	(67) 267	(70) 276	(59) 232	(43) 169	(62) 244	(51) 200	(35) 140	(33) 130
オートバイ盗	(100) 1,666	(84) 1,394	(63) 1,049	(62) 1,039	(51) 853	(51) 856	(36) 593	(28) 473	(23) 375	(22) 369
自転車盗	(100) 8,211	(87) 7,152	(78) 6,383	(74) 6,058	(59) 4,827	(53) 4,325	(48) 3,966	(43) 3,499	(38) 3,154	(34) 2,796

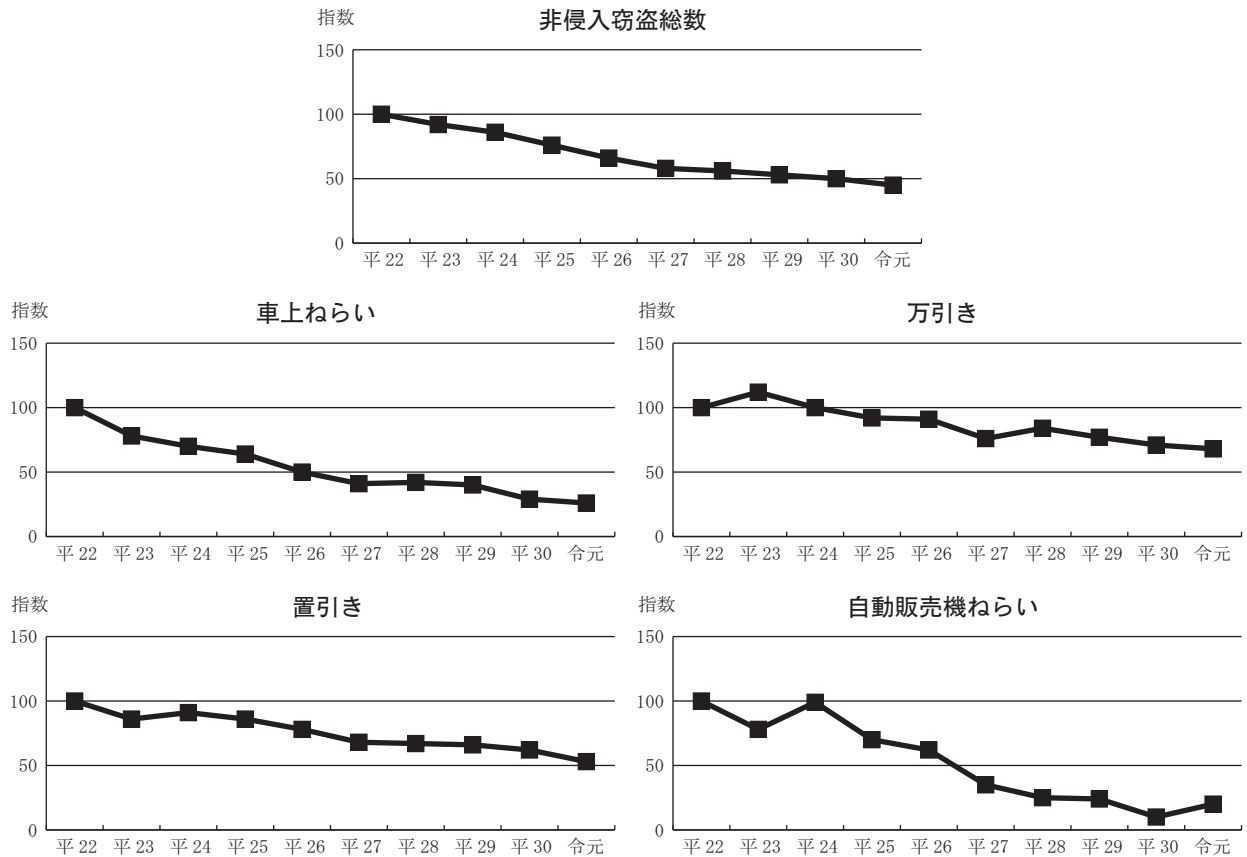
注 () 内は、平成22年を100とした指数を示す。

(ウ) 非侵入窃盗

非侵入窃盗の認知件数は7,234件で、対前年比807件（10.0%）減少した。

このうち主要手口である「車上ねらい」、「万引き」、「置引き」及び「自動販売機ねらい」の推移は、第9図のとおりである。

第9図 非侵入窃盗認知件数の推移（10年間）



年次 総数・手口	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
非侵入窃盗総数	(100) 16,137	(92) 14,843	(86) 13,818	(76) 12,202	(66) 10,701	(58) 9,298	(56) 9,074	(53) 8,524	(50) 8,041	(45) 7,234
うち) 車上ねらい	(100) 3,569	(78) 2,766	(70) 2,489	(64) 2,271	(50) 1,794	(41) 1,452	(42) 1,511	(40) 1,410	(29) 1,048	(26) 914
うち) 万 引 き	(100) 3,586	(112) 4,027	(100) 3,584	(92) 3,291	(91) 3,280	(76) 2,716	(84) 3,020	(77) 2,764	(71) 2,562	(68) 2,451
うち) 置 引 き	(100) 1,495	(86) 1,292	(91) 1,357	(86) 1,279	(78) 1,159	(68) 1,016	(67) 998	(66) 984	(62) 921	(53) 788
うち) 自動販売機ねらい	(100) 583	(78) 457	(99) 575	(70) 407	(62) 363	(35) 206	(25) 144	(24) 138	(10) 56	(20) 118

注1 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

注2 非侵入窃盗は、乗り物盗を除く。

エ 知 能 犯

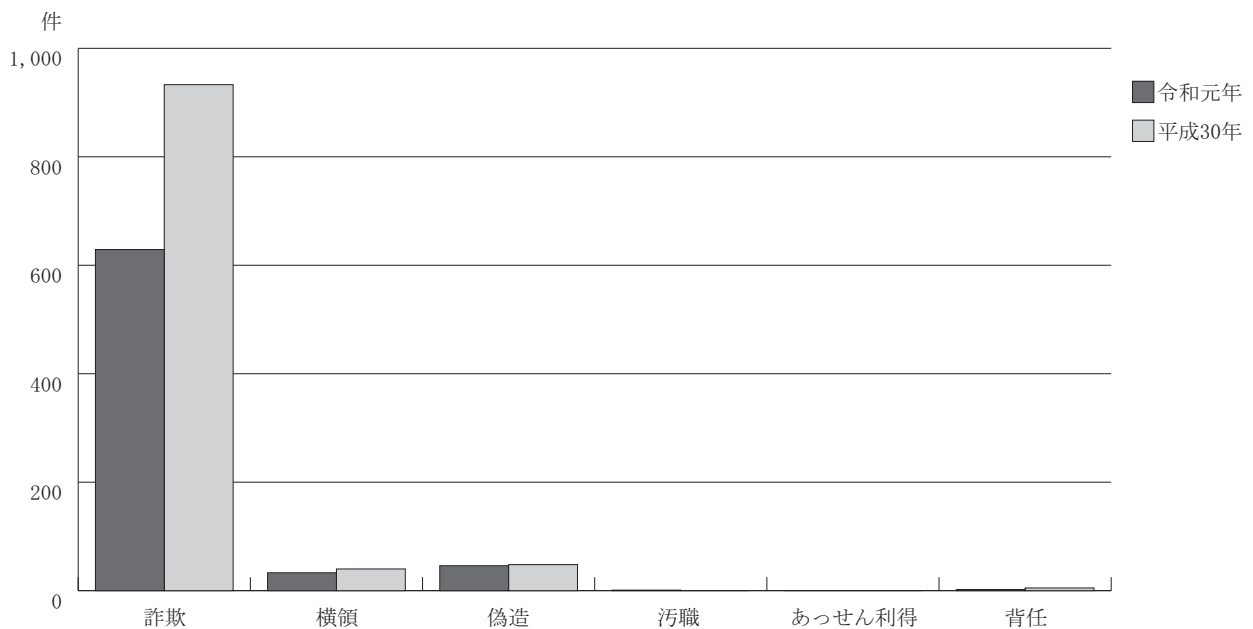
知能犯の認知件数は711件で、対前年比315件（30.7%）減少した。

これを罪種別にみると、第7表のとおりで、「汚職」が増加し、「詐欺」、「横領」、「偽造」、「背任」が減少した。

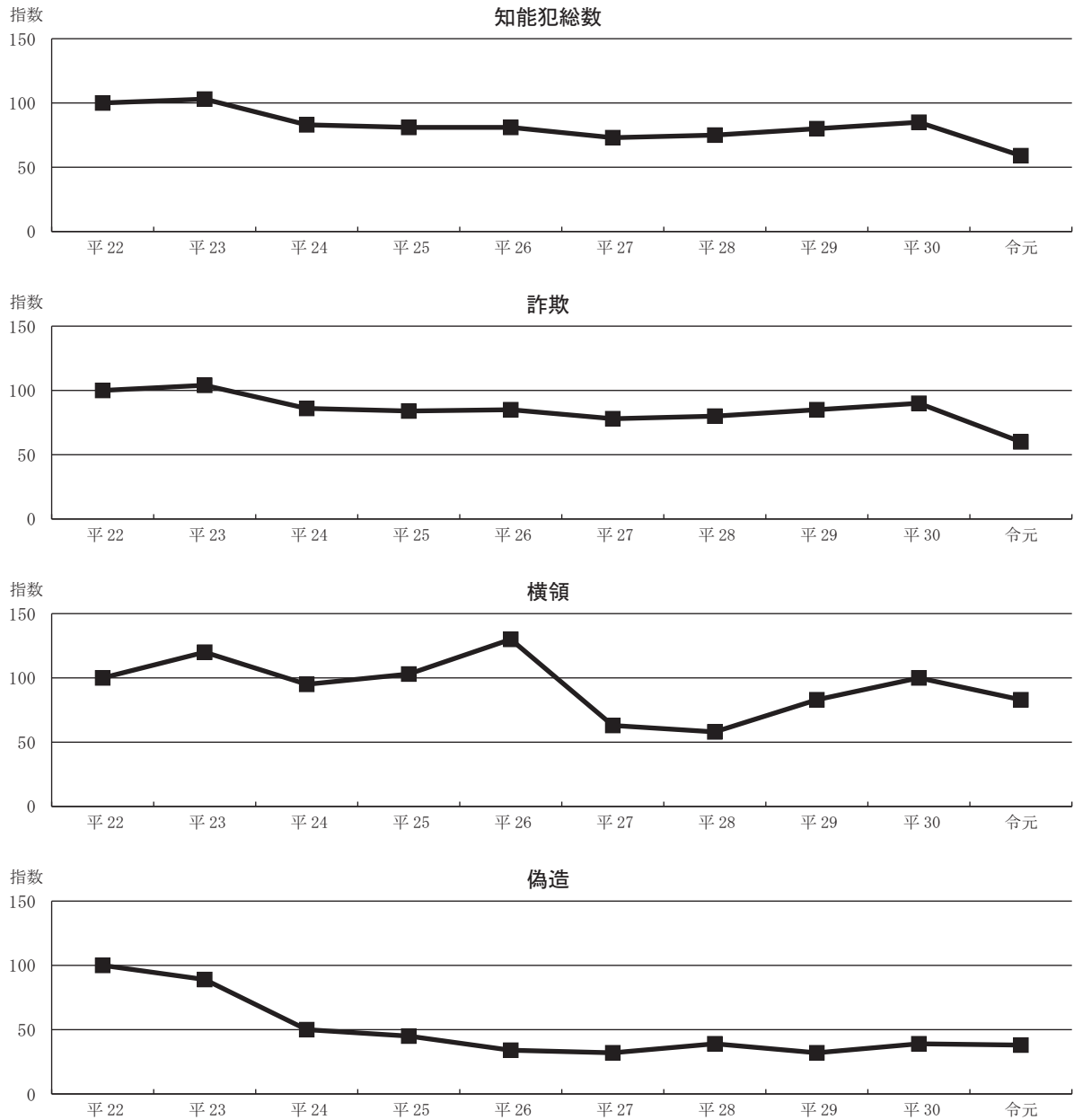
過去10年間における知能犯認知件数の推移は、第10図のとおりである。

第7表 知能犯認知件数表（前年比較）

罪 種	令 和 元	平 成 30	増 減	
			件 数	%
総 数	711	1,026	-315	-30.7
詐 欺	629	933	-304	-32.6
横 領	33	40	-7	-17.5
偽 造	46	48	-2	-4.2
汚 職	1	-	1	100.0
あ っ せ ん 利 得	-	-	-	-
背 任	2	5	-3	-60.0



第10図 知能犯認知件数の推移（10年間）



年次 総数・罪種	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
知能犯総数	(100) 1,205	(103) 1,237	(83) 999	(81) 974	(81) 978	(73) 879	(75) 900	(80) 960	(85) 1,026	(59) 711
うち 詐欺	(100) 1,040	(104) 1,077	(86) 897	(84) 874	(85) 879	(78) 813	(80) 828	(85) 885	(90) 933	(60) 629
うち 横領	(100) 40	(120) 48	(95) 38	(103) 41	(130) 52	(63) 25	(58) 23	(83) 33	(100) 40	(83) 33
うち 偽造	(100) 122	(89) 108	(50) 61	(45) 55	(34) 42	(32) 39	(39) 48	(32) 39	(39) 48	(38) 46

注 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

オ 風 俗 犯

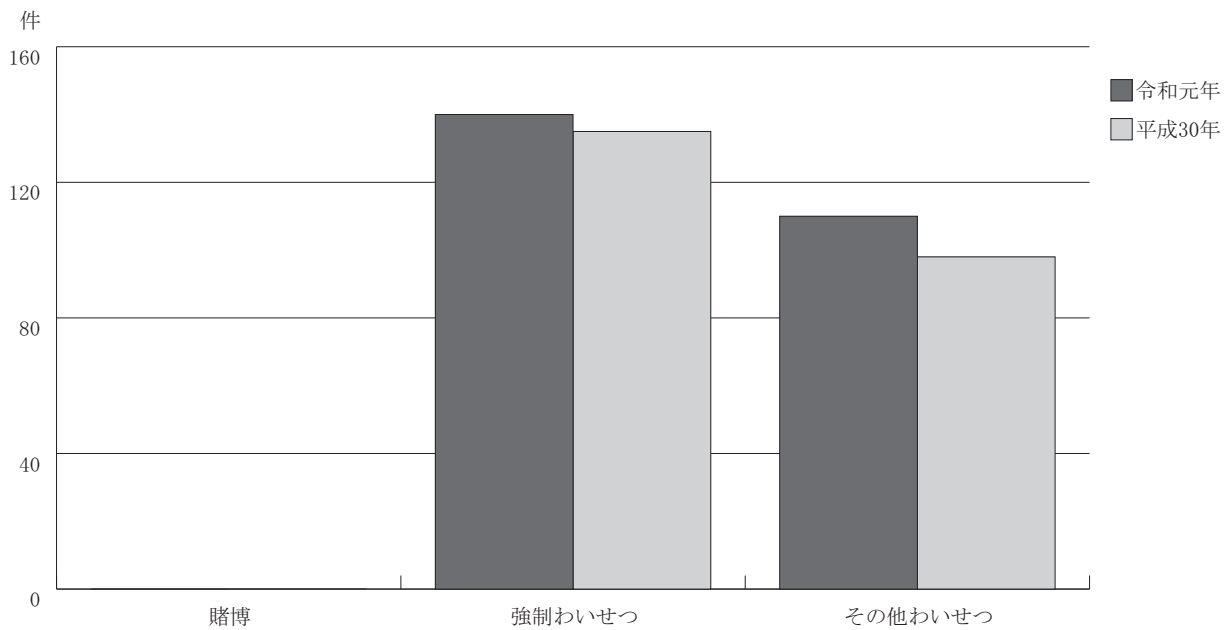
風俗犯の認知件数は250件で、対前年比17件（7.3%）増加した。

これを罪種別にみると、第8表のとおりで、「強制わいせつ」、「その他のわいせつ」が増加した。

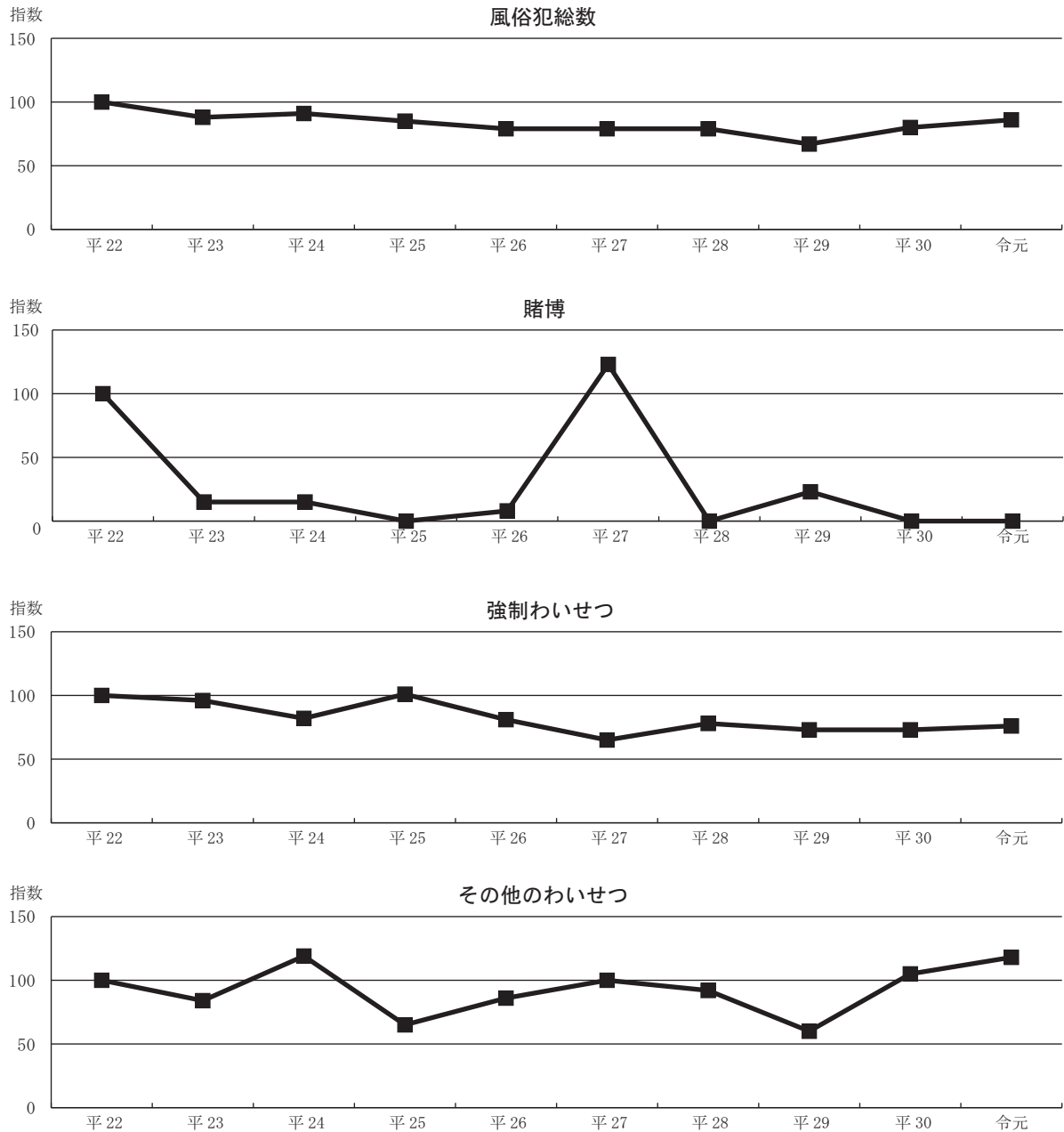
過去10年間における風俗犯認知件数の推移は、第11図のとおりである。

第8表 風俗犯認知件数表（前年比較）

罪 種	令 和 元	平 成 30	増 減	
			件 数	%
総 数	250	233	17	7.3
賭 博	—	—	—	—
強 制 わ い せ つ	140	135	5	3.7
そ の 他 の わ い せ つ	110	98	12	12.2



第11図 風俗犯認知件数の推移（10年間）



年次 総数・罪種	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
風俗犯総数	(100) 291	(88) 257	(91) 264	(85) 246	(79) 231	(79) 229	(79) 230	(67) 194	(80) 233	(86) 250
賭博	(100) 13	(15) 2	(15) 2	(—) —	(8) 1	(123) 16	(—) —	(23) 3	(—) —	(—) —
強制わいせつ	(100) 185	(96) 177	(82) 151	(101) 186	(81) 150	(65) 120	(78) 144	(73) 135	(73) 135	(76) 140
その他のわいせつ	(100) 93	(84) 78	(119) 111	(65) 60	(86) 80	(100) 93	(92) 86	(60) 56	(105) 98	(118) 110

注1 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

カ その他の刑法犯

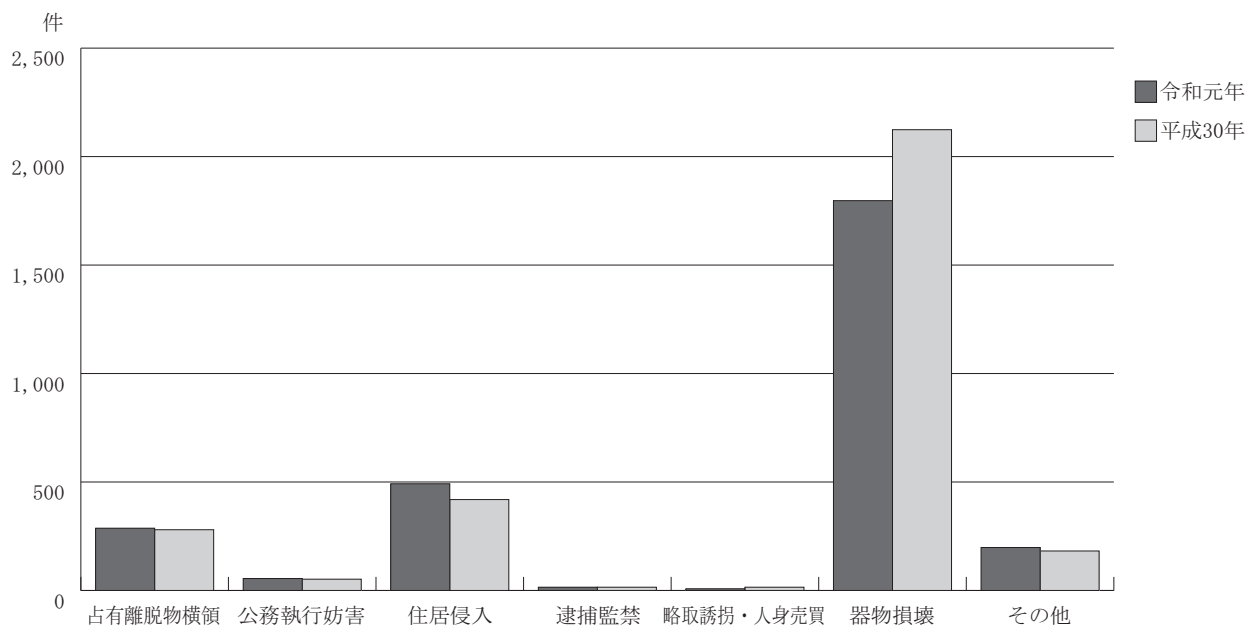
その他の刑法犯の認知件数は2,852件で、対前年比235件（7.6%）減少した。

これを各主要罪種別にみると、第9表のとおりで、「占有離脱物横領」、「公務執行妨害」、「住居侵入」が増加し、「逮捕監禁」は同数、「略取誘拐・人身売買」、「器物損壊等」は減少した。

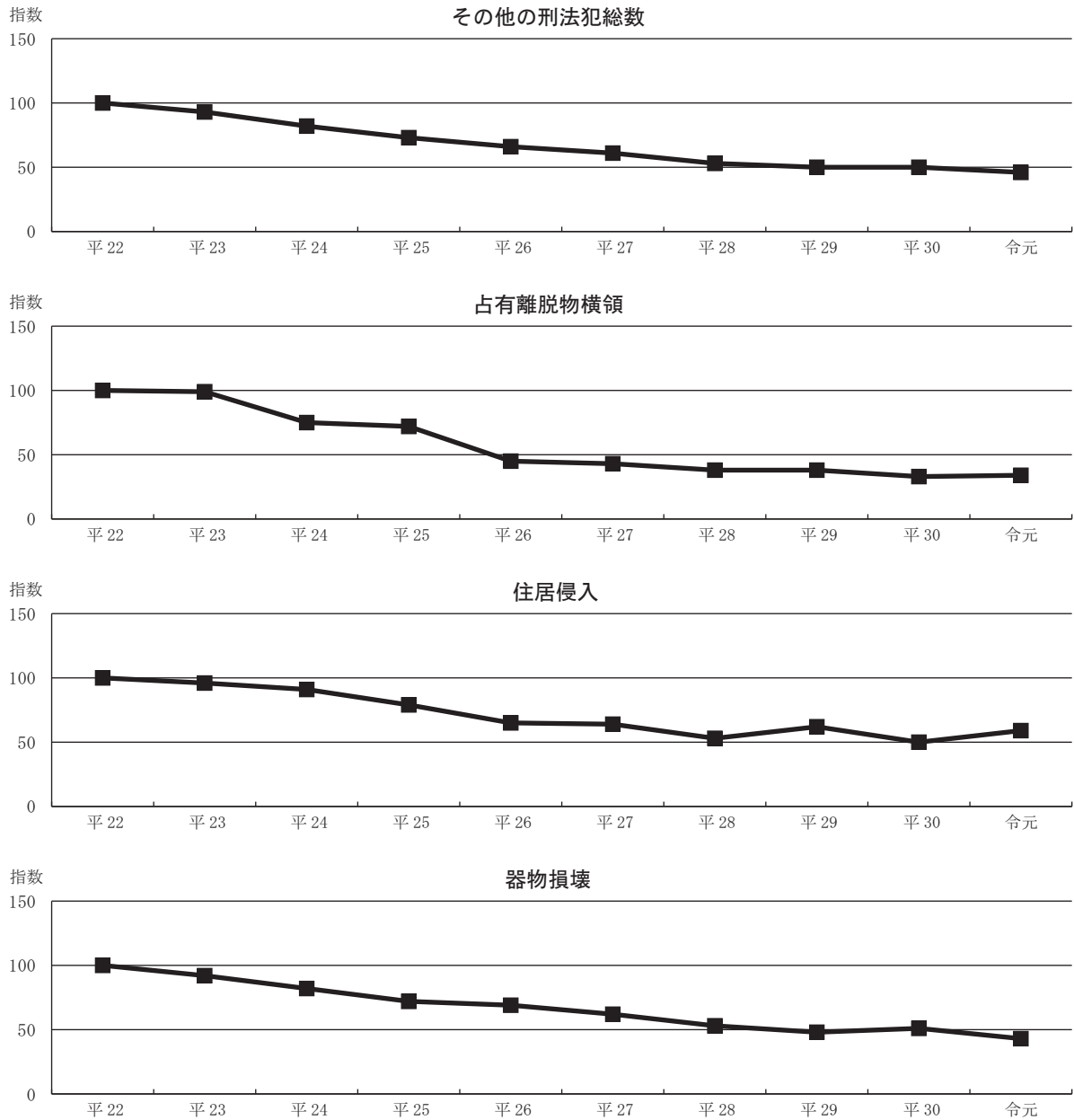
過去10年間におけるその他の刑法犯の認知件数の推移は、第12図のとおりである。

第9表 その他の刑法犯認知件数表（前年比較）

罪 種	令 和 元	平 成 30	増 減	
			件 数	%
総 数	2,852	3,087	-235	-7.6
占有離脱物横領	287	280	7	2.5
公務執行妨害	55	52	3	5.8
住居侵入	492	419	73	17.4
逮捕監禁	15	15	-	-
略取誘拐・人身売買	8	15	-7	-46.7
器物損壊等	1,797	2,124	-327	-15.4
そ の 他	198	182	16	8.8



第12図 その他の刑法犯認知件数の推移（10年間）



年次 総数・罪種	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
その他の刑法犯総数	(100) 6,156	(93) 5,723	(82) 5,066	(73) 4,520	(66) 4,083	(61) 3,737	(53) 3,237	(50) 3,091	(50) 3,087	(46) 2,852
うち 占有離脱物横領	(100) 840	(99) 835	(75) 632	(72) 602	(45) 378	(43) 360	(38) 322	(38) 315	(33) 280	(34) 287
うち 住居侵入	(100) 837	(96) 803	(91) 764	(79) 661	(65) 548	(64) 537	(53) 441	(62) 518	(50) 419	(59) 492
うち 器物損壊等	(100) 4,183	(92) 3,852	(82) 3,412	(72) 2,998	(69) 2,900	(62) 2,596	(53) 2,205	(48) 2,027	(51) 2,124	(43) 1,797

注 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

(5) 警察署別認知状況

刑法犯認知件数の警察署平均は638件で、対前年比90件（12.4%）減少した。

県下28署中、新設の浜松西署を除くと、前年より増加した警察署は、5署あり、その状況は第10表のとおりである。増加率が高かった警察署は、藤枝署（10.7%）、熱海署（9.3%）の順であった。

一方、減少率の高かった警察署は、管轄区域が減少した浜松中央署を除くと、大仁署（30.2%）、細江署（28.7%）の順であった。

次に、刑法犯認知件数の構成比による上位5警察署は、第11表のとおりである。

この上位5署で7,389件を認知し、認知総数の41.3%を占めている。

第10表 警察署別認知件数及び増減表

警察署		令和元	平成30	増減	率
総	数	17,876	19,659	-1,783	-9.1
下	田	294	272	22	8.1
大	仁	384	550	-166	-30.2
三	島	587	794	-207	-26.1
伊	東	324	363	-39	-10.7
熱	海	271	248	23	9.3
沼	津	1,613	1,686	-73	-4.3
裾	野	429	485	-56	-11.5
御	殿	512	656	-144	-22.0
富	士	1,461	1,486	-25	-1.7
富	宮	509	521	-12	-2.3
清	水	1,007	1,143	-136	-11.9
静	岡	1,613	1,499	114	7.6
静	岡	1,333	1,362	-29	-2.1
藤	枝	592	535	57	10.7
焼	津	604	671	-67	-10.0
島	田	334	359	-25	-7.0
牧	之	240	306	-66	-21.6
菊	川	205	285	-80	-28.1
掛	川	465	443	22	5.0
袋	井	465	564	-99	-17.6
磐	田	750	912	-162	-17.8
天	竜	92	120	-28	-23.3
浜	北	344	391	-47	-12.0
浜	松	1,179	1,396	-217	-15.5
浜	松	1,369	1,964	-595	-30.3
浜	松	353	-	353	-
細	江	246	345	-99	-28.7
湖	西	301	303	-2	-0.7

注 平成31年4月1日浜松西署開庁、浜松市西区（旧浜松中央署管内）を管轄

第11表 刑法犯認知件数上位警察署

警察署	認知件数	構成比 (%)
沼 津	1,613	9.0
静 岡 中 央	1,613	9.0
富 士	1,461	8.2
浜 松 中 央	1,369	7.7
静 岡 南	1,333	7.5

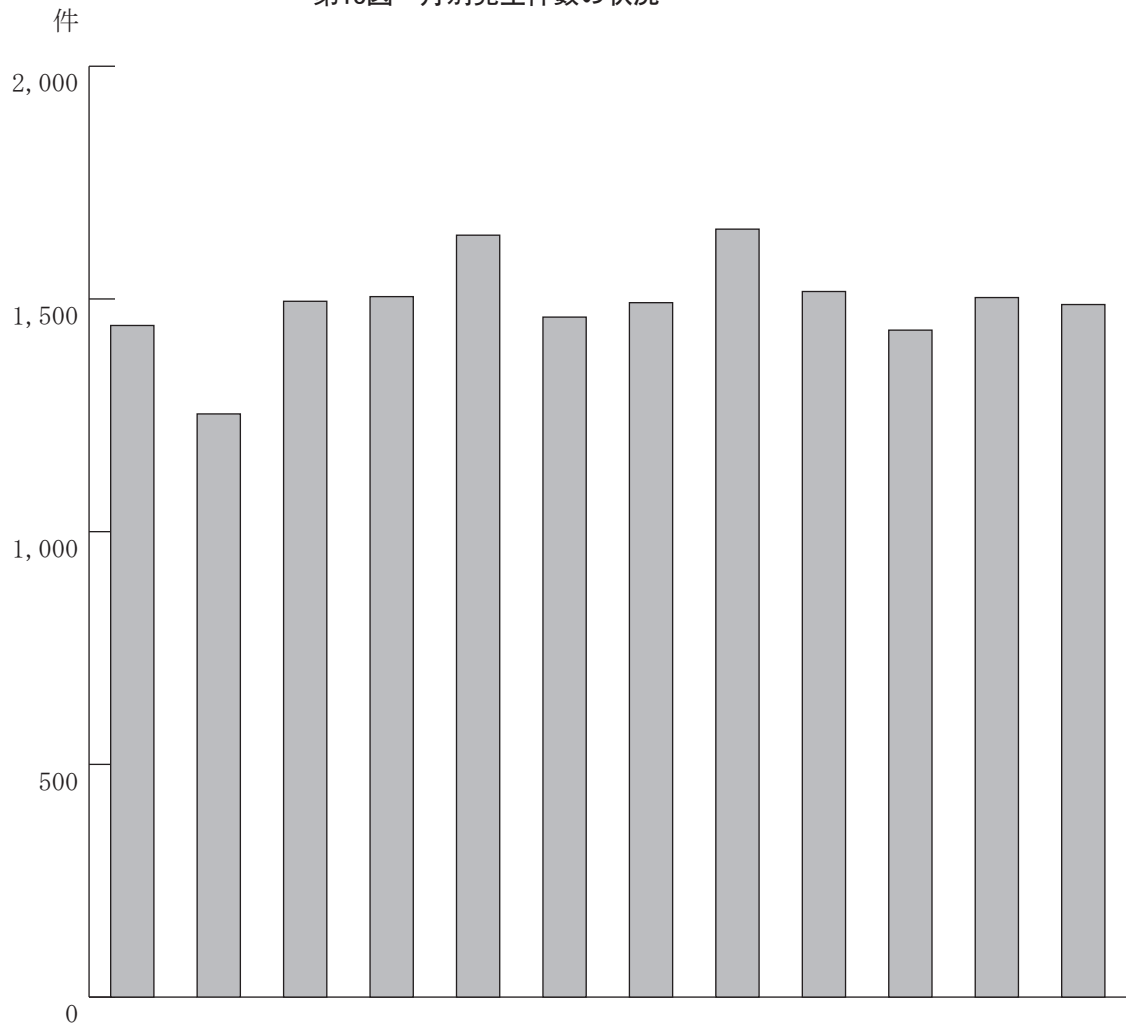
(6) 月別発生状況

刑法犯認知件数17,876件を月別に分類した発生状況は、第13図のとおりである。

犯罪発生のもっとも多い月は、8月の1,650件（9.2％）で、最も少ない月は、2月の1,253件（7.0％）である。

また、包括罪種別に分類した多発月は、凶悪犯が7月の18件（12.5％）、粗暴犯が7月の186件（9.5％）、窃盗犯が8月の1,131件（9.4％）、知能犯が3月の85件（12.0％）、風俗犯が5月の34件（13.6％）となっている。

第13図 月別発生件数の状況



罪種	月	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数		17,876	1,443	1,253	1,495	1,505	1,637	1,461	1,492	1,650	1,516	1,433	1,503	1,488
凶悪犯		144	11	14	11	10	15	12	18	8	9	17	4	15
粗暴犯		1,949	176	144	144	154	169	158	186	185	179	154	155	145
窃盗犯		11,970	960	834	1,012	1,014	1,086	1,006	968	1,131	1,007	977	970	1,005
知能犯		711	66	79	85	57	66	43	51	57	49	49	61	48
風俗犯		250	12	15	11	23	34	21	22	22	27	23	20	20
その他の刑法犯		2,852	218	167	232	247	267	221	247	247	245	213	293	255

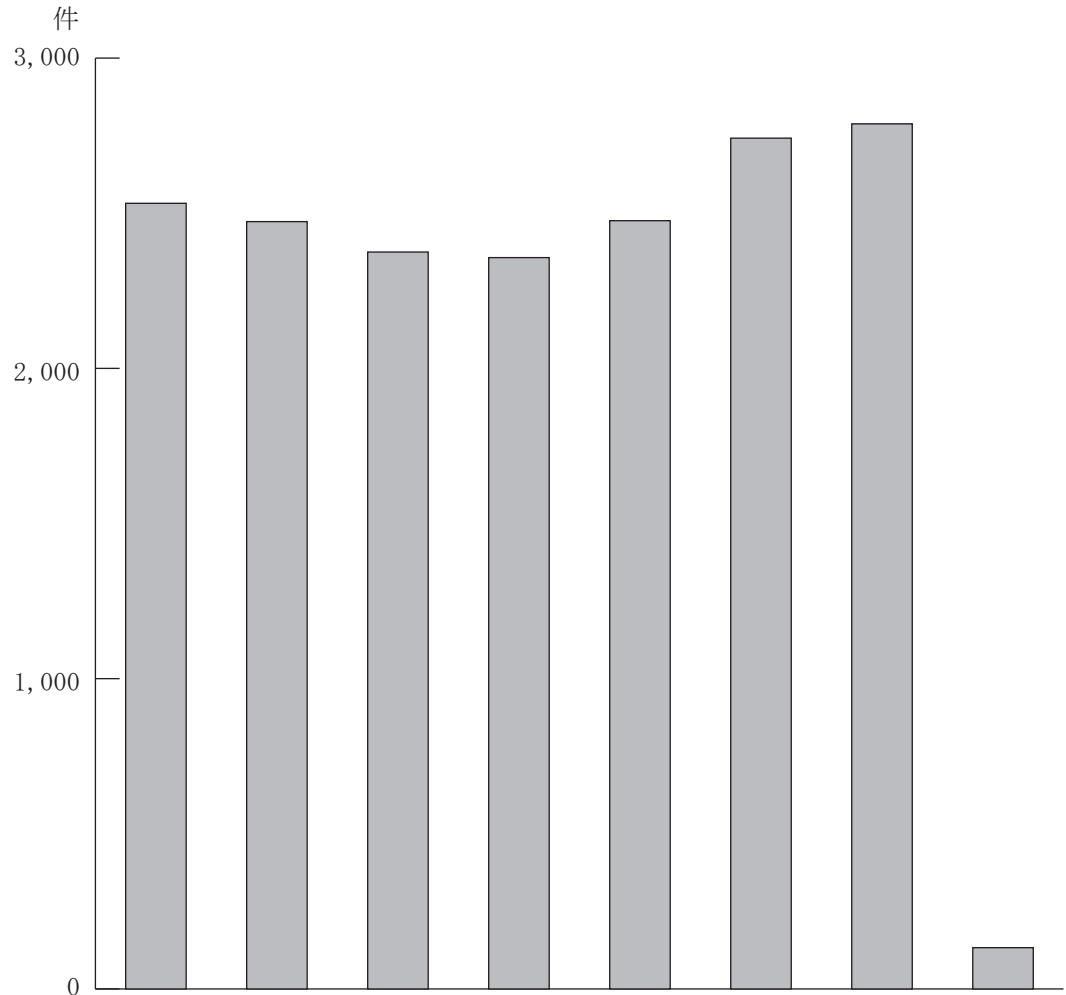
(7) 曜日別発生状況

刑法犯認知件数を曜日別に分類した発生状況は、第14図のとおりである。

発生の最も多い曜日は、土曜日の2,788件（15.6%）、次いで金曜日の2,742件（15.3%）である。

一方、最も少ない曜日は、水曜日の2,357件（13.2%）である。

第14図 曜日別発生件数の状況



罪種	曜日									
	総数	日	月	火	水	木	金	土	不明	
総数	17,876	2,532	2,473	2,375	2,357	2,476	2,742	2,788	133	
凶悪犯	144	23	24	20	21	18	20	12	6	
粗暴犯	1,949	357	241	255	260	222	286	320	8	
窃盗犯	11,970	1,617	1,719	1,582	1,603	1,653	1,832	1,889	75	
知能犯	711	46	96	116	100	159	125	64	5	
風俗犯	250	31	36	46	28	46	33	28	2	
その他の刑法犯	2,852	458	357	356	345	378	446	475	37	

(8) 時間帯別発生状況

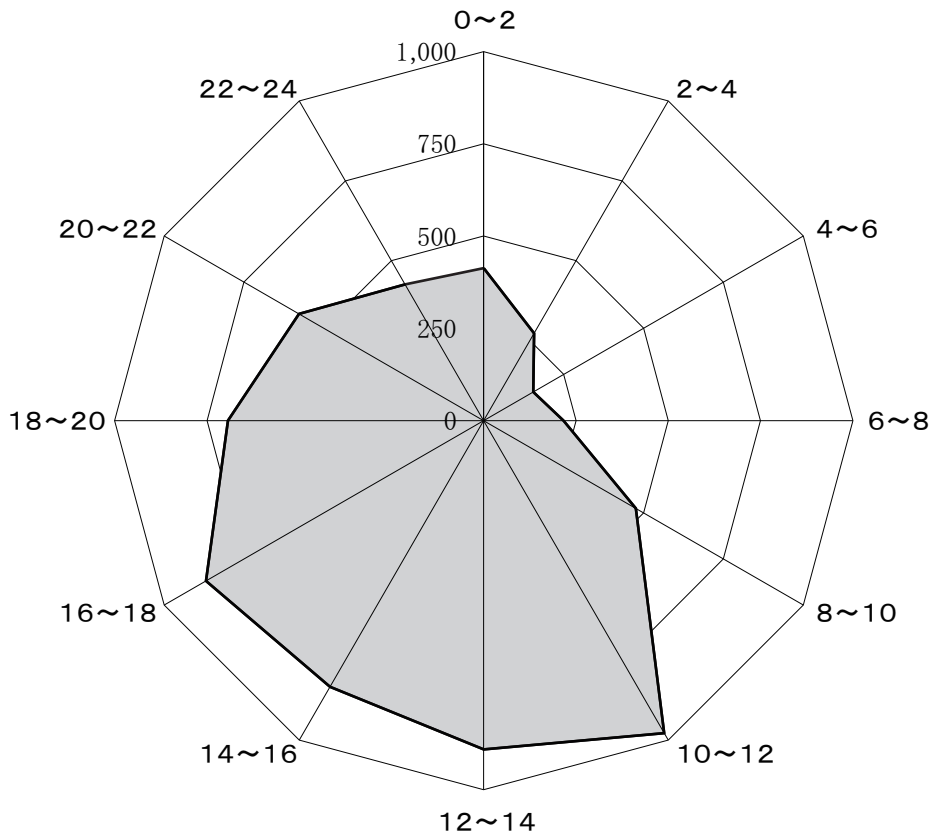
刑法犯認知件数の時間帯別（2時間単位）発生状況は、第15図及び第12表のとおりである。

最も多い時間帯は、「10時～12時」の978件（14.4%）、次いで「12時～14時」の891件（13.1%）であり、「10時～18時」の8時間が全体の（時間帯不明を除く）52.5%を占めている。

また、昼間を「6時～18時」、夜間を「18時～6時」に大別した発生状況は、昼間が4,263件、夜間が2,538件で昼間が上回っている。

また、包括罪種別の時間帯別認知件数の状況は、第16図のとおりである。

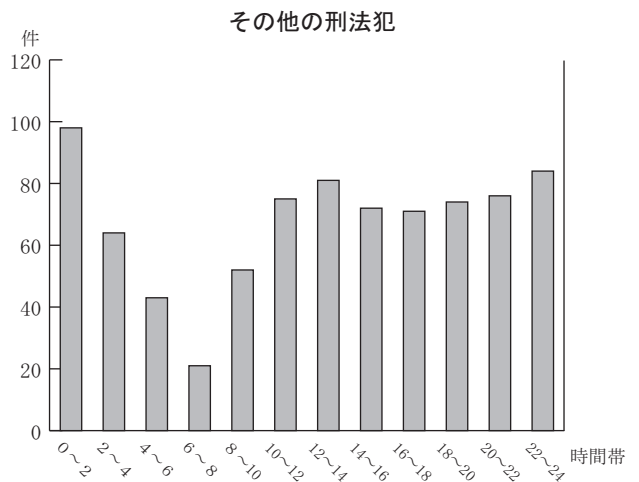
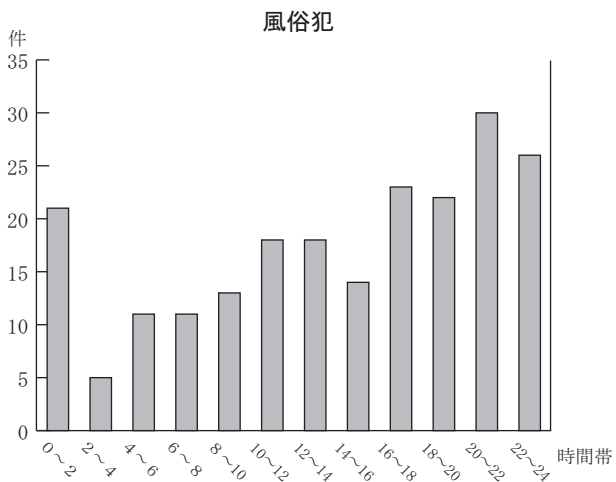
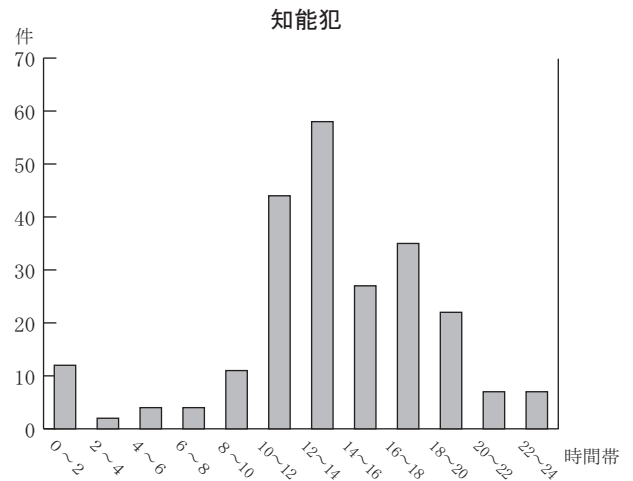
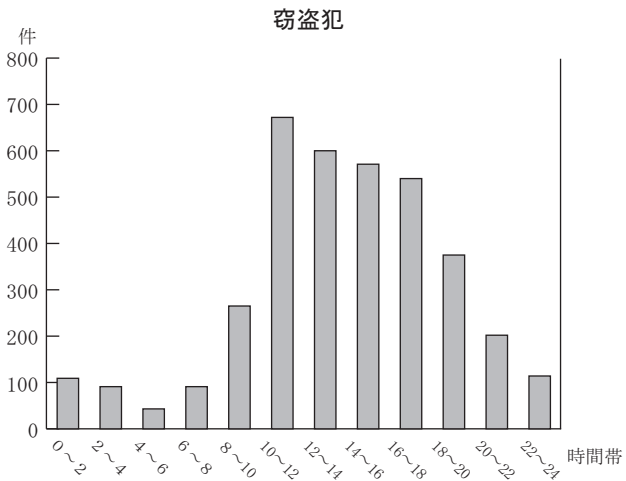
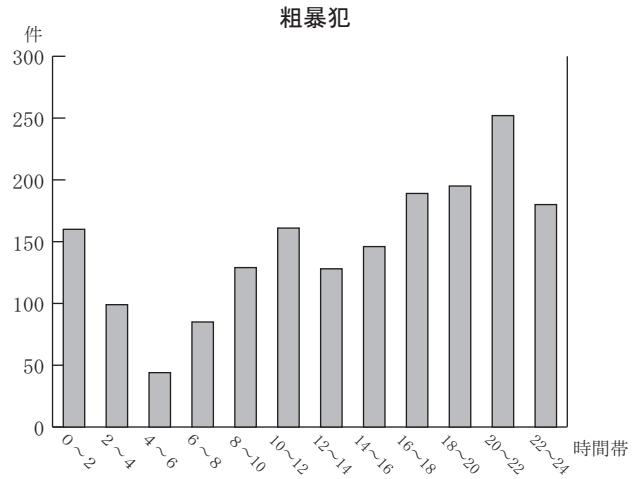
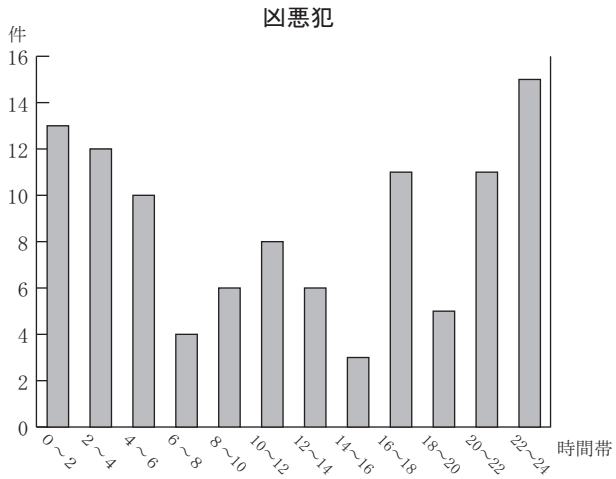
第15図 時間帯別認知件数の状況（総数）



第12表 刑法犯包括罪種別時間帯別認知件数表

罪種	総数	時 間 帯												不明
		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	
総 数	17,876	413	273	155	216	476	978	891	833	869	693	578	426	11,075
凶 悪 犯	144	13	12	10	4	6	8	6	3	11	5	11	15	40
粗 暴 犯	1,949	160	99	44	85	129	161	128	146	189	195	252	180	181
窃 盗 犯	11,970	109	91	43	91	265	672	600	571	540	375	202	114	8,297
知 能 犯	711	12	2	4	4	11	44	58	27	35	22	7	7	478
風 俗 犯	250	21	5	11	11	13	18	18	14	23	22	30	26	38
その他の刑法犯	2,852	98	64	43	21	52	75	81	72	71	74	76	84	2,041

第16図 時間帯別認知件数の状況（包括罪種別）



2 犯罪の被害状況

犯罪による死傷者及び財産犯の被害状況は、次のとおりである。

(1) 死 傷 者

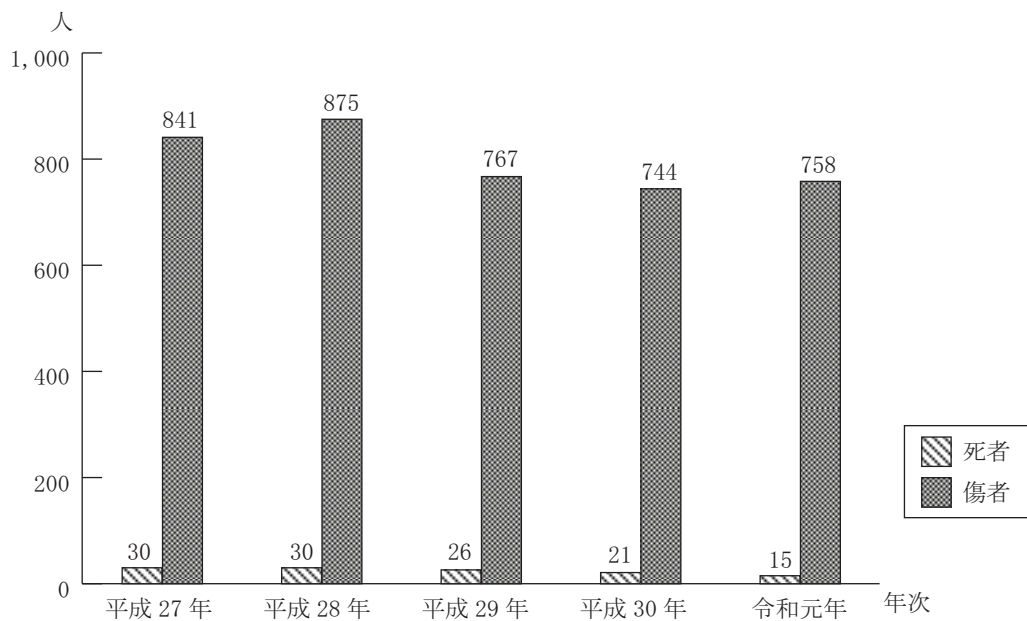
県下で死亡又は負傷した被害者の総数は773人で、対前年比8人（1.0%）増加した。

最近5年間の状況は、第13表及び第17図のとおりである。

第13表 過去5年間死傷被害者数表

罪 種	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
	死者	傷者	死者	傷者	死者	傷者	死者	傷者	死者	傷者
総 数	30	841	30	875	26	767	21	744	15	758
殺 人	9	13	13	23	15	18	7	19	6	23
強 盗	1	20	—	27	—	22	—	26	—	20
放 火	1	1	—	4	—	3	1	—	—	—
強 制 性 交 等	—	3	—	4	—	10	—	3	—	3
傷害（同致死）	1	764	2	775	1	668	1	667	3	664
過失致死傷	1	5	—	—	1	8	—	5	—	7
業務上過失致死傷	16	22	13	22	8	30	11	18	5	26
失 火	—	6	—	—	—	—	—	—	1	1
そ の 他	1	7	2	20	1	8	1	6	—	14

第17図 過去5年間死傷被害者数状況



(2) 財産犯の被害

財産犯（強盗、恐喝、窃盗、詐欺、横領、背任、占有離脱物横領及び不動産侵奪）による被害総額は19億9,452万円で、対前年比7億8,593万円（28.3%）減少した。

このうち、現金の被害額は11億5,324万円で、対前年比7億2,973万円（38.8%）減少しており、被害総額の57.8%が現金である。

罪種別に分類すると、窃盗が11億8,297万円（構成比59.3%）で最も多く、次いで詐欺が5億9,820万円（構成比30.0%）の順となっている。

最近5年間の主要罪種別被害額の状況は、第14表のとおりである。

第14表 過去5年間主要罪種別被害額表

(単位：万円)

罪種	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
	総額	うち)現金	総額	うち)現金	総額	うち)現金	総額	うち)現金	総額	うち)現金
総数	251,716	145,148	315,920	192,781	280,867	153,245	278,045	188,297	199,452	115,324
強盗	4,348	1,076	1,016	719	165	122	220	171	890	836
恐喝	2,117	2,117	2,447	2,337	2,673	2,672	2,957	1,097	1,259	1,259
窃盗	134,914	43,259	148,985	36,170	136,842	35,318	116,660	38,847	118,297	41,074
詐欺	99,115	87,824	137,473	131,308	137,710	112,442	143,772	136,211	59,820	54,154
横領	10,606	10,551	24,939	22,020	2,935	2,470	11,463	9,215	18,083	17,360
背任	—	—	600	—	—	—	2,489	2,489	83	12
占有離脱物横領	616	321	460	227	542	221	484	267	1,019	629
不動産侵奪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3 検 挙 状 況

(1) 重 要 犯 罪

重要犯罪の検挙件数は212件で、対前年比21件（9.0%）減少し、検挙人員は183人で対前年比9人（4.7%）減少した。また、検挙率は72.6%で対前年比7.7ポイント低下した。

罪種別の検挙件数及び検挙人員は第15表のとおりで、件数・人員ともに「殺人」、「強制性交等」が増加し、「強盗」、「放火」、「略取誘拐・人身売買」、「強制わいせつ」は減少した。

第15表 重要犯罪検挙状況表（前年比較）

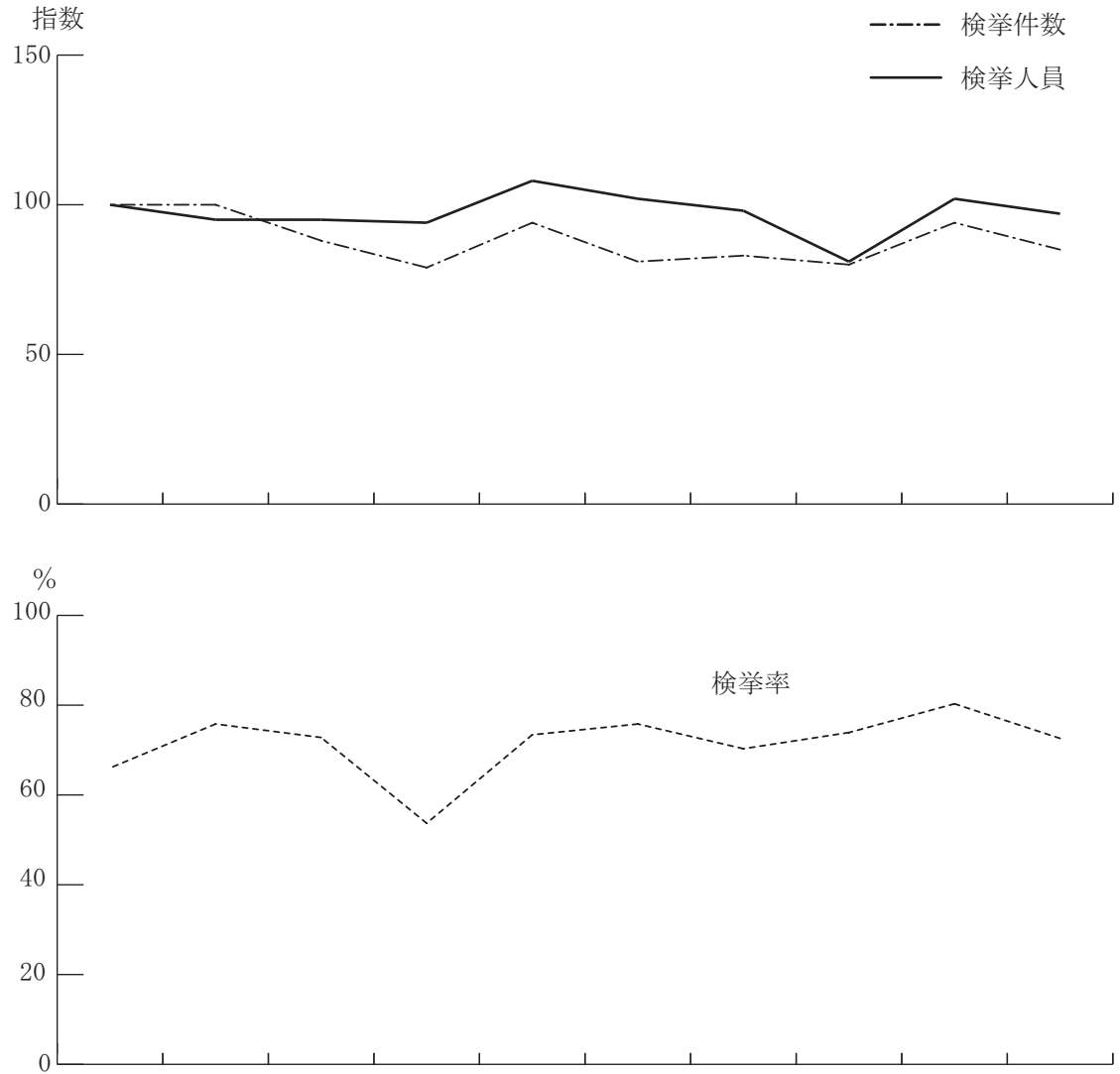
罪 種	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和元	平成30	増 減		令和元	平成30	増 減	
			件数	%			人員	%
総 数	212	233	-21	-9.0	183	192	-9	-4.7
殺 人	41	28	13	46.4	37	19	18	94.7
強 盗	31	47	-16	-34.0	42	52	-10	-19.2
放 火	25	28	-3	-10.7	13	20	-7	-35.0
強 制 性 交 等	28	25	3	12.0	28	27	1	3.7
略取誘拐・人身売買	8	16	-8	-50.0	9	10	-1	-10.0
強 制 わ い せ つ	79	89	-10	-11.2	54	64	-10	-15.6

過去10年間における重要犯罪検挙件数、検挙人員及び検挙率の推移は、第16表及び第18図のとおりである。

第16表 重要犯罪検挙状況表（10年間）

罪 種	区 分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
総 数	検挙件数	249	250	219	196	235	201	206	198	233	212
	検挙人員	188	178	179	176	203	192	185	152	192	183
	検 挙 率	66.0	75.8	72.8	53.7	73.4	75.8	70.3	73.9	80.3	72.6
殺 人	検挙件数	29	20	27	27	29	28	32	30	28	41
	検挙人員	21	13	26	22	21	47	20	29	19	37
	検 挙 率	87.9	133.3	90.0	93.1	96.7	100.0	100.0	88.2	93.3	120.6
強 盗	検挙件数	68	49	53	59	57	43	42	36	47	31
	検挙人員	72	58	49	66	68	51	46	29	52	42
	検 挙 率	79.1	65.3	86.9	68.6	90.5	79.6	73.7	85.7	97.9	83.8
放 火	検挙件数	15	28	25	9	34	17	18	24	28	25
	検挙人員	16	11	16	11	26	11	26	12	20	13
	検 挙 率	51.7	90.3	78.1	27.3	85.0	40.5	66.7	104.3	107.7	59.5
強 制 性 交 等	検挙件数	32	35	27	14	25	27	21	23	25	28
	検挙人員	24	27	28	12	21	18	17	19	27	28
	検 挙 率	82.1	116.7	117.4	53.8	75.8	135.0	84.0	76.7	69.4	90.3
略取誘拐・ 人身売買	検挙件数	3	1	4	4	4	1	8	3	16	8
	検挙人員	3	-	3	3	3	1	7	4	10	9
	検 挙 率	60.0	50.0	100.0	80.0	100.0	100.0	100.0	75.0	106.7	100.0
強 制 わ い せ つ	検挙件数	102	117	83	83	86	85	85	82	89	79
	検挙人員	52	69	57	62	64	64	69	59	64	54
	検 挙 率	55.1	66.1	55.0	44.6	57.3	70.8	59.0	60.7	65.9	56.4

第18図 重要犯罪検挙状況の推移（10年間）



年次 区分	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令元
検 挙 件 数	(100) 249	(100) 250	(88) 219	(79) 196	(94) 235	(81) 201	(83) 206	(80) 198	(94) 233	(85) 212
検 挙 率	66.0	75.8	72.8	53.7	73.4	75.8	70.3	73.9	80.3	72.6
検 挙 人 員	(100) 188	(95) 178	(95) 179	(94) 176	(108) 203	(102) 192	(98) 185	(81) 152	(102) 192	(97) 183

注 () 内は、平成22年を100とした指数を示す。

(2) 重要窃盗犯

重要窃盗犯の検挙件数は969件で、対前年比17件（1.8%）増加し、検挙人員は170人で、対前年比12人（7.6%）増加した。また、検挙率は60.1%で対前年比6.0ポイント上昇した。

手口別の検挙件数及び検挙人員は、第17表のとおりである。

第17表 重要窃盗犯検挙状況表（前年比較）

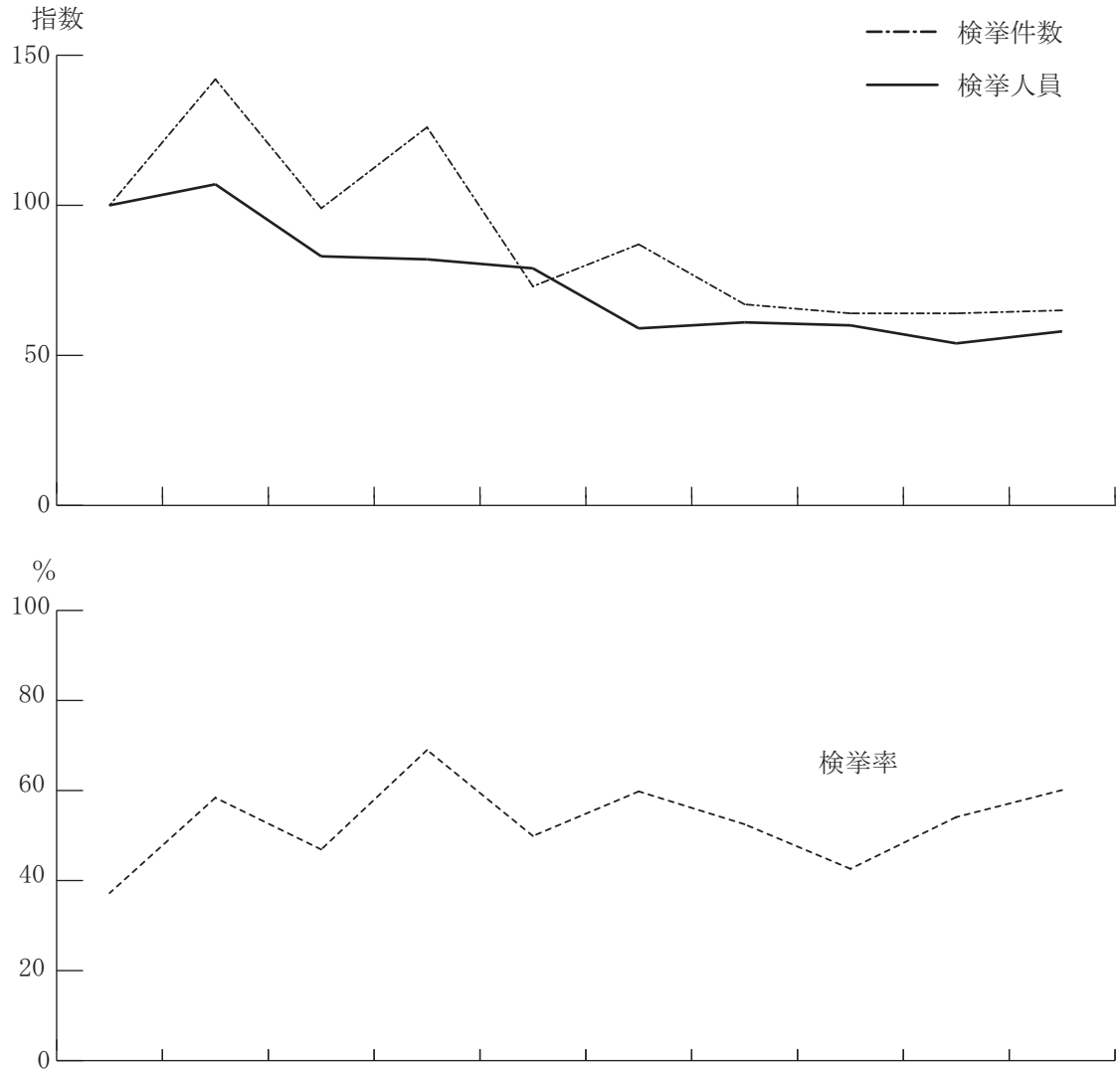
手 口	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和元	平成30	増 減		令和元	平成30	増 減	
			件数	%			人員	%
総 数	969	952	17	1.8	170	158	12	7.6
侵 入 窃 盗	813	784	29	3.7	124	115	9	7.8
住宅対象	251	312	-61	-19.6	40	49	-9	-18.4
その他	562	472	90	19.1	84	66	18	27.3
自 動 車 盗	129	79	50	63.3	30	24	6	25.0
ひ っ た く り	12	74	-62	-83.8	6	6	-	-
す り	15	15	-	-	10	13	-3	-23.1

過去10年間における重要窃盗犯の検挙件数、検挙人員及び検挙率の推移は、第18表及び第19図のとおりである。

第18表 重要窃盗犯検挙状況表（10年間）

手 口	区 分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
総 数	検挙件数	1,496	2,129	1,488	1,889	1,093	1,301	1,004	957	952	969
	検挙人員	292	311	243	238	231	172	177	175	158	170
	検 挙 率	37.2	58.4	46.9	69.0	49.9	59.8	52.5	42.6	54.1	60.1
侵入窃盗	検挙件数	1,191	1,757	1,368	1,540	926	968	852	771	784	813
	検挙人員	191	215	183	155	174	131	135	131	115	124
	検 挙 率	34.6	56.0	48.7	64.8	48.7	49.2	53.7	39.0	49.5	56.4
自動車盗	検挙件数	243	287	98	321	150	314	118	150	79	129
	検挙人員	64	67	50	66	45	31	31	34	24	30
	検 挙 率	61.4	78.4	36.7	116.3	64.7	185.8	48.4	75.0	56.4	99.2
ひったくり	検挙件数	40	56	13	19	10	12	21	21	74	12
	検挙人員	15	12	7	9	4	6	4	4	6	6
	検 挙 率	30.5	51.9	16.9	29.7	22.7	66.7	34.4	46.7	411.1	66.7
す り	検挙件数	22	29	9	9	7	7	13	15	15	15
	検挙人員	22	17	3	8	8	4	7	6	13	10
	検 挙 率	44.9	80.6	36.0	39.1	58.3	35.0	61.9	68.2	78.9	62.5

第19図 重要窃盗犯検挙状況の推移（10年間）



区 分 \ 年 次	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和元
検 挙 件 数	(100) 1,496	(142) 2,129	(99) 1,488	(126) 1,889	(73) 1,093	(87) 1,301	(67) 1,004	(64) 957	(64) 952	(65) 969
検 挙 率	37.2	58.4	46.9	69.0	49.9	59.8	52.5	42.6	54.1	60.1
検 挙 人 員	(100) 292	(107) 311	(83) 243	(82) 238	(79) 231	(59) 172	(61) 177	(60) 175	(54) 158	(58) 170

注 () 内は、平成22年を100とした指数を示す。

(3) 包括罪種別にみた検挙状況

ア 凶 悪 犯

凶悪犯の検挙件数は125件で、対前年比3件（2.3%）減少し、検挙人員は120人で、対前年比2人（1.7%）増加した。

過去10年間における凶悪犯検挙件数等の状況は、第19表のとおりである。

第19表 凶悪犯検挙状況表（10年間）

罪 種	区 分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
総 数	検挙件数	144	132	132	109	145	115	113	113	128	125
	検挙人員	133	109	119	111	136	127	109	89	118	120
	検 挙 率	77.0	87.4	90.4	62.6	87.3	79.9	80.1	87.6	91.4	86.8
殺 人	検挙件数	29	20	27	27	29	28	32	30	28	41
	検挙人員	21	13	26	22	21	47	20	29	19	37
	検 挙 率	87.9	133.3	90.0	93.1	96.7	100.0	100.0	88.2	93.3	120.6
強 盗	検挙件数	68	49	53	59	57	43	42	36	47	31
	検挙人員	72	58	49	66	68	51	46	29	52	42
	検 挙 率	79.1	65.3	86.9	68.6	90.5	79.6	73.7	85.7	97.9	83.8
放 火	検挙件数	15	28	25	9	34	17	18	24	28	25
	検挙人員	16	11	16	11	26	11	26	12	20	13
	検 挙 率	51.7	90.3	78.1	27.3	85.0	40.5	66.7	104.3	107.7	59.5
強制性交等	検挙件数	32	35	27	14	25	27	21	23	25	28
	検挙人員	24	27	28	12	21	18	17	19	27	28
	検 挙 率	82.1	116.7	117.4	53.8	75.8	135.0	84.0	76.7	69.4	90.3

イ 粗 暴 犯

粗暴犯の検挙件数は1,803件で、対前年比124件（7.4%）、検挙人員は2,019人で、対前年比177人（9.6%）といずれも増加した。

過去10年間における粗暴犯検挙件数等の状況は、第20表のとおりである。

第20表 粗暴犯検挙状況表（10年間）

罪 種	区 分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
総 数	検挙件数	1,414	1,331	1,295	1,249	1,382	1,628	1,921	1,642	1,679	1,803
	検挙人員	1,530	1,395	1,402	1,318	1,403	1,718	2,033	1,792	1,842	2,019
	検 挙 率	80.5	81.1	81.1	81.6	84.8	86.8	90.4	90.2	89.3	92.5
凶器準備 集 合	検挙件数	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—
	検挙人員	—	—	—	—	—	27	—	—	—	—
	検 挙 率	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
暴 行	検挙件数	656	670	635	574	688	845	1,122	976	998	1,099
	検挙人員	664	693	642	570	664	874	1,207	1,055	1,107	1,240
	検 挙 率	87.5	83.5	82.3	87.4	86.0	91.3	92.3	94.0	89.7	95.3
傷 害	検挙件数	613	490	494	550	561	605	652	545	579	573
	検挙人員	691	545	584	635	598	654	699	594	619	640
	検 挙 率	78.7	77.8	78.9	75.7	84.9	83.2	88.0	84.9	91.5	89.5
脅 迫	検挙件数	46	70	65	56	68	110	93	82	60	88
	検挙人員	40	45	57	45	62	86	82	71	53	74
	検 挙 率	62.2	90.9	74.7	84.8	79.1	80.3	86.9	88.2	78.9	80.0
恐 喝	検挙件数	99	101	101	69	65	66	54	39	42	43
	検挙人員	135	112	119	68	79	77	45	72	63	65
	検 挙 率	64.3	75.9	90.2	86.3	79.3	78.6	85.7	81.3	71.2	93.5

ウ 窃 盗 犯

窃盗犯の検挙件数は4,810件で、対前年比24件（0.5%）増加し、検挙人員は2,727人で、対前年比57人（2.0%）減少した。

過去10年間における窃盗犯検挙件数等の状況は、第21表のとおりである。

第21表 窃盗犯検挙状況表（10年間）

手 口	区 分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
総 数	検挙件数	8,239	9,367	8,340	7,635	6,351	6,204	5,930	5,531	4,786	4,810
	検挙人員	4,804	5,268	4,990	4,100	3,850	3,431	3,442	3,289	2,784	2,727
	検 挙 率	27.6	34.8	34.3	34.8	34.3	37.3	38.3	37.7	36.0	40.2
侵入窃盗	検挙件数	1,191	1,757	1,368	1,540	926	968	852	771	784	813
	検挙人員	191	215	183	155	174	131	135	131	115	124
	検 挙 率	34.6	56.0	48.7	64.8	48.7	49.2	53.7	39.0	49.5	56.4
乗り物盗	検挙件数	959	996	850	999	663	713	545	560	412	391
	検挙人員	628	588	509	477	378	296	251	258	213	221
	検 挙 率	9.3	11.2	11.0	13.5	11.2	13.3	11.3	13.4	11.2	11.9
非侵入窃盗	検挙件数	6,089	6,614	6,122	5,096	4,762	4,523	4,533	4,200	3,590	3,606
	検挙人員	3,985	4,465	4,298	3,468	3,298	3,004	3,056	2,900	2,456	2,382
	検 挙 率	37.7	44.6	44.3	41.8	44.5	48.6	50.0	49.3	44.6	49.8

注 非侵入窃盗は乗り物盗を除く。

エ 知 能 犯

知能犯の検挙件数は377件で、対前年比156件（29.3%）、検挙人員は278人で、対前年比55人（16.5%）とそれぞれ減少した。

過去10年間における知能犯検挙件数等の状況は、第22表のとおりである。

第22表 知能犯検挙状況表（10年間）

罪 種	区 分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
総 数	検挙件数	814	690	697	694	630	496	533	471	533	377
	検挙人員	460	473	470	505	433	391	415	393	333	278
	検 挙 率	67.6	55.8	69.8	71.3	64.4	56.4	59.2	49.1	51.9	53.0
うち) 詐 欺	検挙件数	676	594	611	616	546	445	477	420	461	311
	検挙人員	359	383	404	423	361	326	354	340	270	236
	検 挙 率	65.0	55.2	68.1	70.5	62.1	54.7	57.6	47.5	49.4	49.4
うち) 横 領	検挙件数	38	26	31	33	43	22	18	17	31	27
	検挙人員	29	27	24	24	31	19	19	16	31	21
	検 挙 率	95.0	54.2	81.6	80.5	82.7	88.0	78.3	51.5	77.5	81.8
うち) 偽 造	検挙件数	97	65	53	41	36	29	37	31	39	37
	検挙人員	68	56	37	53	38	44	41	32	31	20
	検 挙 率	79.5	60.2	86.9	74.5	85.7	74.4	77.1	79.5	81.3	80.4

オ 風 俗 犯

風俗犯の検挙件数は171件で、対前年比15件（9.6%）増加し、検挙人員は105人で、対前年比8人（7.1%）減少した。

過去10年間における風俗犯検挙件数等の状況は、第23表のとおりである。

第23表 風俗犯検挙状況表（10年間）

罪 種	区 分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
総 数	検挙件数	184	184	165	139	145	173	147	132	156	171
	検挙人員	130	150	142	118	117	127	133	94	113	105
	検 挙 率	63.2	71.6	62.5	56.5	62.8	75.5	63.9	68.0	67.0	68.4
賭 博	検挙件数	12	2	2	—	1	14	—	3	—	—
	検挙人員	33	25	9	—	4	20	—	6	—	—
	検 挙 率	92.3	100.0	100.0	—	100.0	87.5	—	100.0	—	—
強 制 わいせつ	検挙件数	102	117	83	83	86	85	85	82	89	79
	検挙人員	52	69	57	62	64	64	69	59	64	54
	検 挙 率	55.1	66.1	55.0	44.6	57.3	70.8	59.0	60.7	65.9	56.4
その他の わいせつ	検挙件数	70	65	80	56	58	74	62	47	67	92
	検挙人員	45	56	76	56	49	43	64	29	49	51
	検 挙 率	75.3	83.3	72.1	93.3	72.5	79.6	72.1	83.9	68.4	83.6

(4) 犯行の動機・原因別検挙状況

刑法犯の検挙件数7,922件中、主な罪種の犯行の動機・原因は、第24表のとおりである。

第24表 犯行の動機・原因別検挙件数表

罪 種	総 数	うち) 生 活 困 窮	うち) 遊 興 費 充 当	うち) 一 時 的 盗 用	うち) そ の 他 の 利 欲	うち) 怨 恨	うち) 性 的 欲 求	うち) 遊 び ・ 好 奇 心	うち) 服 従 合
総 数	(100.0) 7,922	(16.2) 1,284	(11.7) 928	(1.5) 121	(3.1) 242	(1.4) 108	(5.6) 445	(1.0) 80	(0.1) 10
うち) 強 盗	(100.0) 31	(25.8) 8	(12.9) 4	(—) —	(3.2) 1	(3.2) 1	(3.2) 1	(3.2) 1	(—) —
うち) 恐 喝	(100.0) 43	(9.3) 4	(11.6) 5	(—) —	(18.6) 8	(7.0) 3	(—) —	(—) —	(—) —
うち) 窃 盗	(100.0) 4,671	(22.8) 1,067	(17.5) 818	(2.1) 97	(3.4) 161	(0.2) 11	(4.2) 194	(0.8) 36	(0.1) 3
うち) 詐 欺	(100.0) 311	(43.1) 134	(24.1) 75	(—) —	(10.0) 31	(—) —	(—) —	(0.3) 1	(1.6) 5
うち) 横 領	(100.0) 27	(29.6) 8	(11.1) 3	(—) —	(7.4) 2	(—) —	(—) —	(—) —	(—) —

注1 ()内は、総数に対する構成比を示す。

注2 解決事件を除く。

第2 特別法犯

特別法犯（交通関係法令違反を除く）の検挙状況は、第25表のとおりである。

検挙件数は1,747件で、対前年比113件（6.1%）、検挙人員は1,562人で、対前年比109人（6.5%）といずれも減少した。

第25表 特別法犯検挙件数・検挙人員表（前年比較）

区 分	令和元	平成30	増 減	
			件数・人員	%
検 挙 件 数	1,747	1,860	-113	-6.1
検 挙 人 員	1,562	1,671	-109	-6.5
他機関引継人員	17	25	-8	-32.0

注 検挙件数には他機関引継を含む。

主要法令違反の検挙状況は、第26表のとおりで、件数では「覚醒剤取締法」が267件（構成比15.3%）で最も多く、次いで、「大麻取締法」188件（構成比10.8%）、「廃棄物処理法」165件（構成比9.4%）の順になっている。

一方、人員では「覚醒剤取締法」が202人（構成比12.9%）で最も多く、次いで、「廃棄物処理法」197人（構成比12.6%）、「大麻取締法」145人（構成比9.3%）の順となっている。

第26表 特別法犯主要違反法令別検挙件数・検挙人員表（前年比較）

違 反 法 令	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和元	平成30	増 減		令和元	平成30	増 減	
			件数	%			人員	%
公 職 選 挙 法	6	3	3	100.0	7	4	3	75.0
出入国管理及び難民認定法	160	119	41	34.5	107	74	33	44.6
風 営 適 正 化 法	33	43	-10	-23.3	56	114	-58	-50.9
売 春 防 止 法	-	1	-1	-100.0	-	1	-1	-100.0
青少年保護育成条例	56	54	2	3.7	55	47	8	17.0
銃砲刀剣類所持等取締法	129	93	36	38.7	113	74	39	52.7
大 麻 取 締 法	188	163	25	15.3	145	115	30	26.1
覚 醒 剤 取 締 法	267	386	-119	-30.8	202	275	-73	-26.5
毒 物 劇 物 取 締 法	2	4	-2	-50.0	2	4	-2	-50.0
廃 棄 物 処 理 法	165	153	12	7.8	197	167	30	18.0

注 検挙件数には他機関引継を含む。

過去10年間における主要な法令違反の検挙件数及び検挙人員は、第27表、第28表のとおりである。

第27表 特別法犯主要違反法令検挙件数状況表（10年間）

違反法令	年 次									
	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
公職選挙法	2	2	—	8	—	5	1	—	3	6
出入国管理及び難民認定法	266	175	103	134	106	78	60	136	119	160
風営適正化法	150	156	137	179	206	154	52	49	43	33
売春防止法	4	6	3	8	2	5	—	1	1	—
青少年保護育成条例	67	70	75	77	66	60	36	49	54	56
銃砲刀剣類所持等取締法	123	120	102	107	75	88	87	105	93	129
大麻取締法	104	84	93	77	71	88	145	173	163	188
覚醒剤取締法	464	526	490	414	338	362	371	332	386	267
毒物劇物取締法	20	10	11	9	8	11	4	6	4	2
廃棄物処理法	174	182	177	182	175	173	162	160	153	165

注 他機関引継を含む。

第28表 特別法犯主要違反法令別検挙人員状況表（10年間）

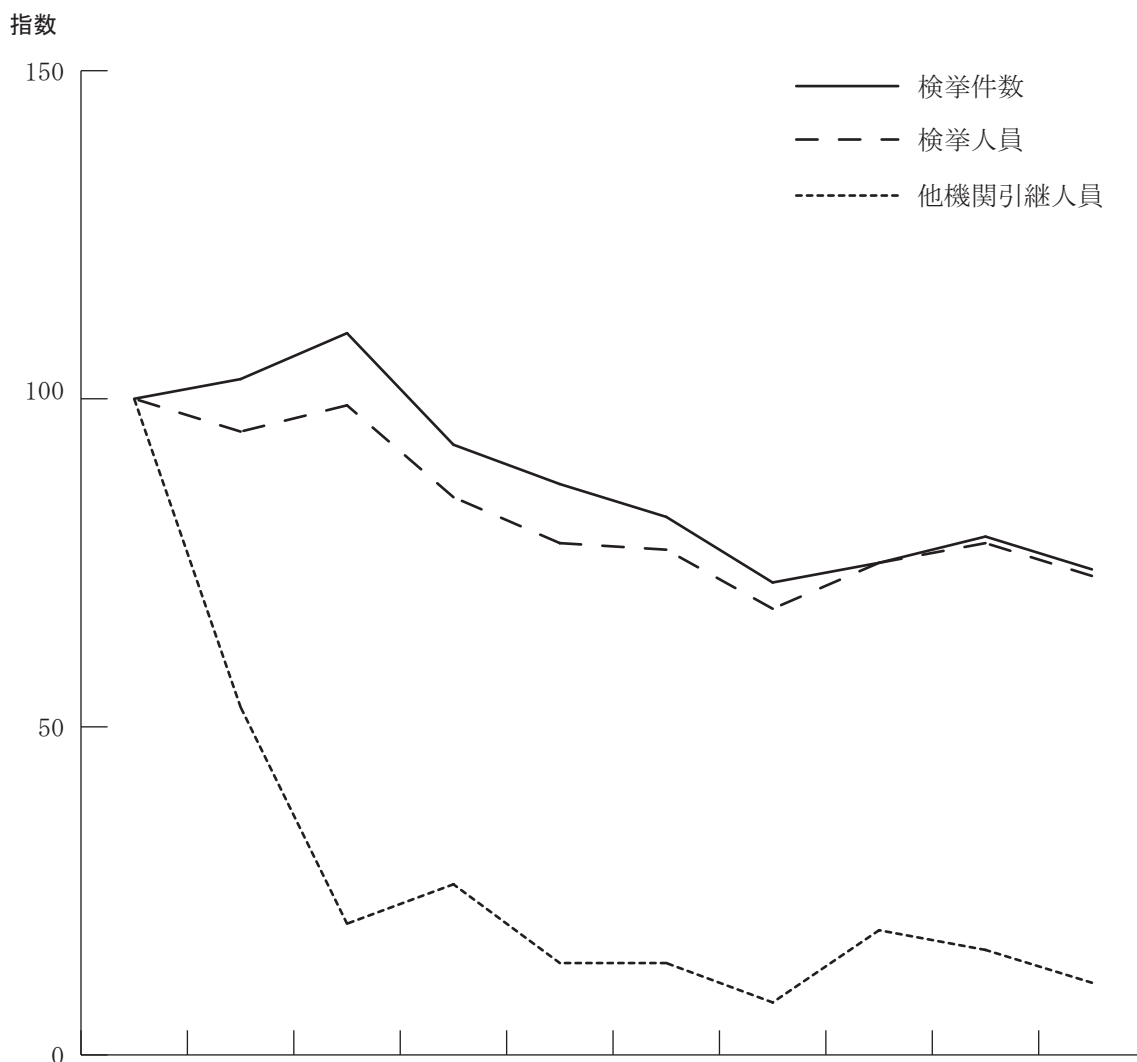
違反法令	年 次									
	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
公職選挙法	9	4	—	5	—	35	1	—	4	7
出入国管理及び難民認定法	83	67	60	82	54	42	44	86	74	107
風営適正化法	209	211	199	238	240	189	84	72	114	56
売春防止法	5	8	3	8	1	1	—	1	1	—
青少年保護育成条例	65	70	71	72	63	49	34	47	47	55
銃砲刀剣類所持等取締法	98	95	83	93	65	66	70	83	74	113
大麻取締法	85	64	78	62	55	64	107	112	115	145
覚醒剤取締法	413	443	418	350	272	312	286	258	275	202
毒物劇物取締法	19	11	11	9	6	11	1	5	4	2
廃棄物処理法	211	219	202	193	221	200	191	183	167	197

第28-1表 特別法犯他機関引継人員状況表（10年間）

違反法令	年 次									
	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
出入国管理及び難民認定法	159	84	32	42	22	22	13	30	25	17

過去10年間における特別法犯検挙状況の推移は、第20図のとおりである。

第20図 特別法犯検挙状況の推移（10年間）



区分 \ 年次	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和元
検挙件数	(100) 2,394	(95) 2,268	(99) 2,370	(85) 2,034	(78) 1,868	(77) 1,836	(68) 1,636	(75) 1,784	(78) 1,860	(73) 1,747
検挙人員	(100) 2,107	(103) 2,169	(110) 2,317	(93) 1,970	(87) 1,839	(82) 1,738	(72) 1,512	(75) 1,579	(79) 1,671	(74) 1,562
うち 少年	(100) 167	(109) 182	(131) 219	(87) 146	(79) 132	(62) 103	(60) 101	(46) 76	(38) 63	(78) 131
他機関引継人員	(100) 159	(53) 84	(20) 32	(26) 42	(14) 22	(14) 22	(8) 13	(19) 30	(16) 25	(11) 17

注1 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

注2 検挙件数には他機関引継を含む。

第3 少年犯罪

1 犯罪少年

(1) 刑法犯検挙状況

刑法犯における犯罪少年の検挙人員は528人で、対前年比31人（5.5%）減少した。

包括罪種別の検挙人員は、第29表のとおりである。

第29表 刑法犯犯罪少年包括罪種別検挙人員表（前年比較）

罪 種	令 和 元		平 成 30		増 減	
	数	構 成 比	数	構 成 比	人 員	%
総 数	528	100.0	559	100.0	-31	-5.5
凶 悪 犯	14	2.7	10	1.8	4	40.0
粗 暴 犯	108	20.5	123	22.0	-15	-12.2
窃 盗 犯	297	56.3	312	55.7	-15	-4.8
知 能 犯	20	3.8	23	4.1	-3	-13.0
風 俗 犯	10	1.9	19	3.4	-9	-47.4
その他の刑法犯	79	15.0	72	12.9	7	9.7

過去10年間における検挙人員は、第30表のとおりである。

全検挙人員に占める少年の割合は9.0%で、成人を4,827人下回った。

第30表 刑法犯犯罪少年男女別検挙人員表（10年間）

区 分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
検 挙 人 員	1,872	1,824	1,605	1,405	1,108	928	808	678	559	528
男	1,493	1,477	1,315	1,162	931	798	704	563	474	459
女	379	347	290	243	177	130	104	115	85	69
全検挙人員中に占める 少年の割合（%）	22.3	21.1	19.6	19.5	16.4	14.3	11.9	10.7	9.7	9.0

少年事件及び成人との共犯事件の包括罪種別検挙件数は、第31表のとおりである。

第31表 刑法犯犯罪少年包括罪種別検挙件数表（前年比較）

罪 種	令 和 元 年		平 成 30 年		増 減			
	少年事件	少年・成人 共犯事件	少年事件	少年・成人 共犯事件	少年事件	%	少年・成人共犯事件	%
総 数	557	21	607	56	-50	-8.2	-35	-62.5
凶 悪 犯	8	3	10	-	-2	-20.0	3	300.0
粗 暴 犯	81	3	95	10	-14	-14.7	-7	-70.0
窃 盗 犯	352	9	358	29	-6	-1.7	-20	-69.0
うち) 侵入窃盗	28	4	19	12	9	47.4	-8	-66.7
うち) 非侵入窃盗	231	5	227	17	4	1.8	-12	-70.6
知 能 犯	14	6	37	13	-23	-62.2	-7	-53.8
風 俗 犯	31	-	23	-	8	34.8	-	-
そ の 他 の 刑 法 犯	71	-	84	4	-13	-15.5	-4	-100.0

※ 非侵入窃盗は乗り物盗を除く。

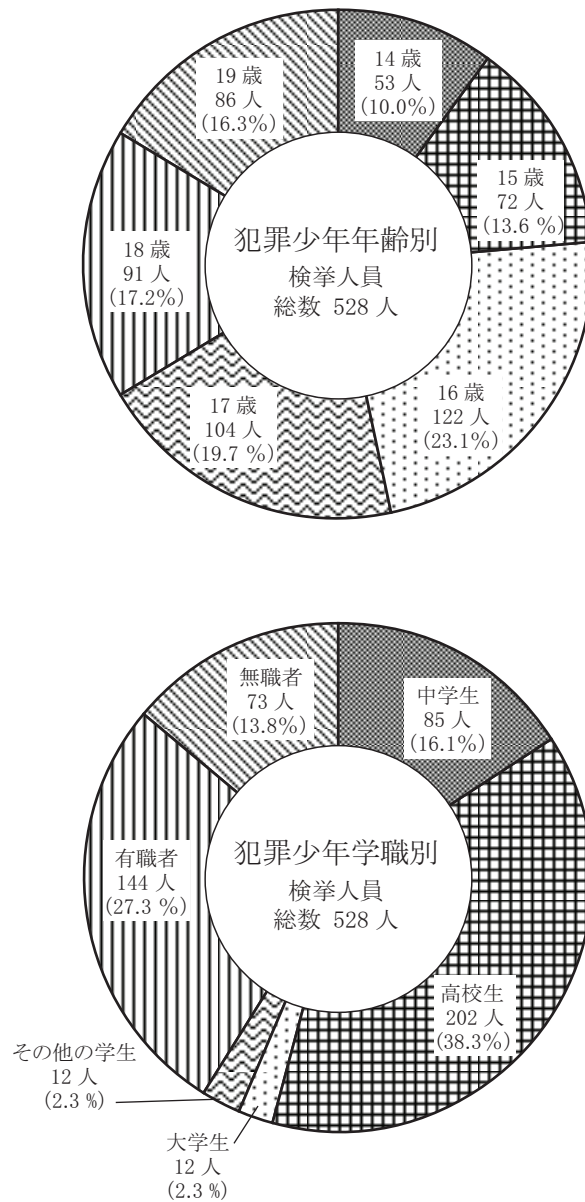
(2) 刑法犯犯罪少年の年齢・学職別状況

犯罪少年の年齢別・学職別状況は第21図のとおりである。

年齢別では、16歳が122人（23.1%）で最も多く、次いで17歳の104人（19.7%）、以下18歳、19歳、15歳、14歳の順となっている。

また、学職別では高校生が202人（38.3%）で最も多く、次いで有職者の144人（27.3%）、以下中学生、無職者、大学生、同率でその他の学生の順となっている。

第21図 刑法犯犯罪少年年齢別・学職別構成比



(3) 特別法犯検挙状況

特別法犯において検挙された犯罪少年は131人で、対前年比68人（107.9％）増加した。

主要違反法令別の検挙状況は、第32表のとおりである。

第32表 特別法犯犯罪少年主要違反法令別検挙人員表（前年比較）

違反法令	令和元		平成30		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	%
総数	131	100.0	63	100.0	68	107.9
児童買春・児童ポルノ法	39	29.8	11	17.5	28	254.5
軽犯罪法	26	19.8	13	20.6	13	100.0
迷惑行為防止条例	14	10.7	5	7.9	9	180.0
大麻取締法	11	8.4	7	11.1	4	57.1
青少年保護育成条例	10	7.6	4	6.3	6	150.0
その他	31	23.7	23	36.5	8	34.8

過去10年間における検挙人員は、第33表のとおりである。

第33表 特別法犯犯罪少年検挙人員表（10年間）

区分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
検挙人員	167	182	219	146	132	103	101	76	63	131
男	133	134	167	129	112	80	88	67	61	120
女	34	48	52	17	20	23	13	9	2	11
全検挙人員中に占める少年の割合（％）	7.9	8.4	9.5	7.4	7.2	5.9	6.7	4.8	3.8	8.4

2 触法少年

(1) 刑法犯補導状況

刑法犯における触法少年の補導状況は192人で、対前年比30人（18.5%）増加した。

包括罪種別の補導人員は、第34表のとおりである。

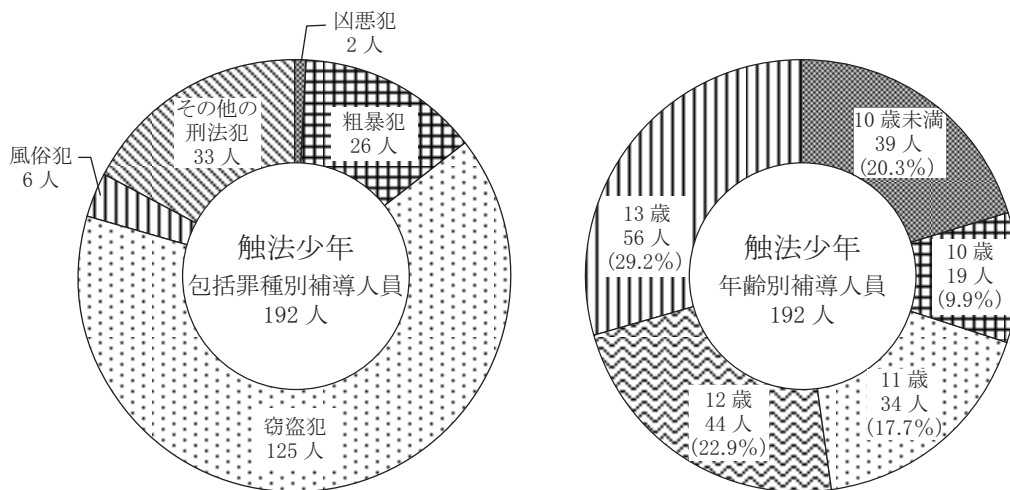
「窃盗犯」、「その他の刑法犯」が増加し、「凶悪犯」、「粗暴犯」、「風俗犯」は減少した。

罪種別・年齢別の補導状況は、第22図のとおりである。

第34表 刑法犯触法少年包括罪種別補導人員表（前年比較）

罪種	令和元		平成30		増減	
	数	構成比	数	構成比	人員	%
総数	192	100.0	162	100.0	30	18.5
凶悪犯	2	1.0	3	1.9	-1	-33.3
粗暴犯	26	13.5	30	18.5	-4	-13.3
窃盗犯	125	65.1	109	67.3	16	14.7
知能犯	-	-	-	-	-	-
風俗犯	6	3.1	7	4.3	-1	-14.3
その他の刑法犯	33	17.2	13	8.0	20	153.8

第22図 刑法犯触法少年罪種別・年齢別補導人員の構成比



(2) 特別法犯補導状況

特別法犯における触法少年の補導人員は12人で、対前年比8人（200.0%）増加した。

主要違反法令別の補導人員は、第35表のとおりである。

第35表 特別法犯触法少年主要違反法令別補導人員（前年比較）

違反法令	令和元		平成30		増減	
		構成比		構成比	人員	%
総数	12	100.0	4	100.0	8	200.0
軽犯罪法	7	58.3	3	75.0	4	133.3
迷惑行為防止条例	1	8.3	1	25.0	—	—
児童買春・児童ポルノ法	1	8.3	—	—	1	100.0
銃砲刀剣類所持等取締法	1	8.3	—	—	1	100.0
その他	2	16.7	—	—	2	200.0

過去10年間における補導人員は、第36表のとおりである。

第36表 特別法犯触法少年補導人員表（10年間）

区分	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
補導人員	4	16	6	21	6	14	17	13	4	12
男	3	16	6	19	6	11	12	11	4	11
女	1	—	—	2	—	3	5	2	—	1

第4 暴力団等犯罪

1 暴力団等犯罪検挙状況

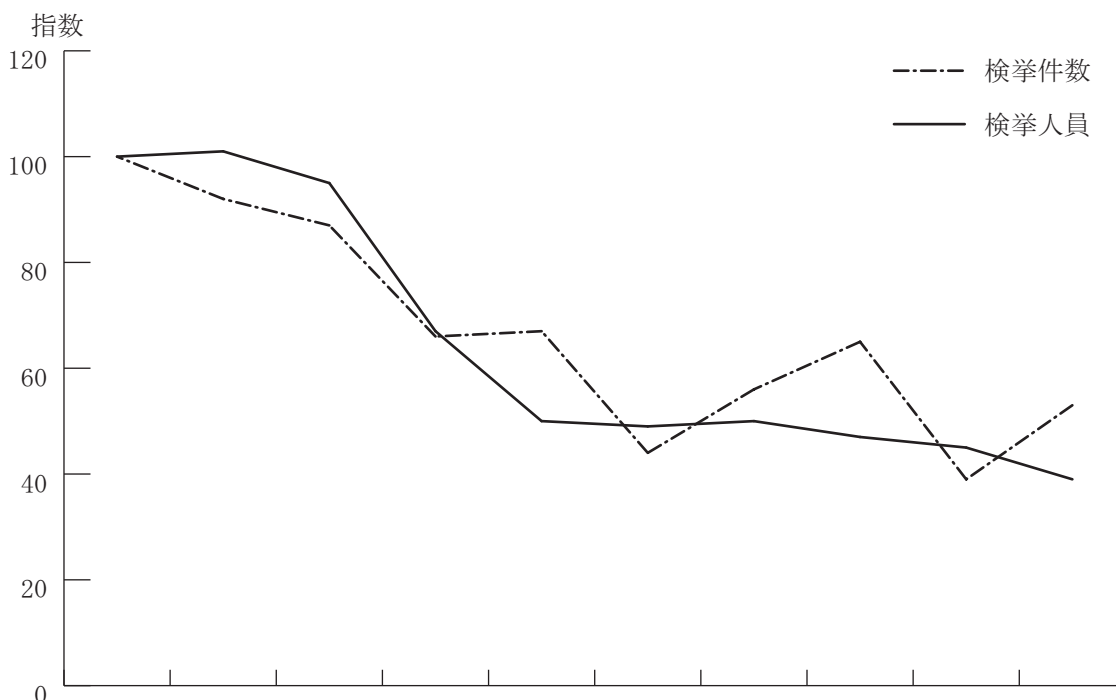
暴力団等犯罪の検挙状況は、第23図のとおりである。

検挙件数は662件で、対前年比177件（36.5%）増加し、検挙人員は353人で、対前年比54人（13.3%）減少した。

刑法犯では、検挙件数は494件で、対前年比222件（81.6%）増加し、検挙人員は218人で、対前年比18人（7.6%）減少した。

特別法犯では、検挙件数は168件で、対前年比45件（21.1%）、検挙人員は135人で、対前年比36人（21.1%）と、どちらも減少した。

第23図 暴力団等犯罪検挙状況の推移（10年間）



区分		年次									
		平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
検 挙 件 数		(100) 1,243	(92) 1,141	(87) 1,087	(66) 821	(67) 834	(44) 549	(56) 702	(65) 806	(39) 485	(53) 662
	検 挙 人 員	(100) 900	(101) 912	(95) 855	(67) 600	(50) 451	(49) 441	(50) 451	(47) 421	(45) 407	(39) 353
刑 法 犯	検 挙 件 数	846	647	632	493	595	336	469	603	272	494
	検 挙 人 員	546	497	458	306	256	274	264	249	236	218
特 別 法 犯	検 挙 件 数	397	494	455	328	239	213	233	203	213	168
	検 挙 人 員	354	415	397	294	195	167	187	172	171	135

注 () 内は、平成22年を100とした指数を示す。

2 包括罪種別検挙状況

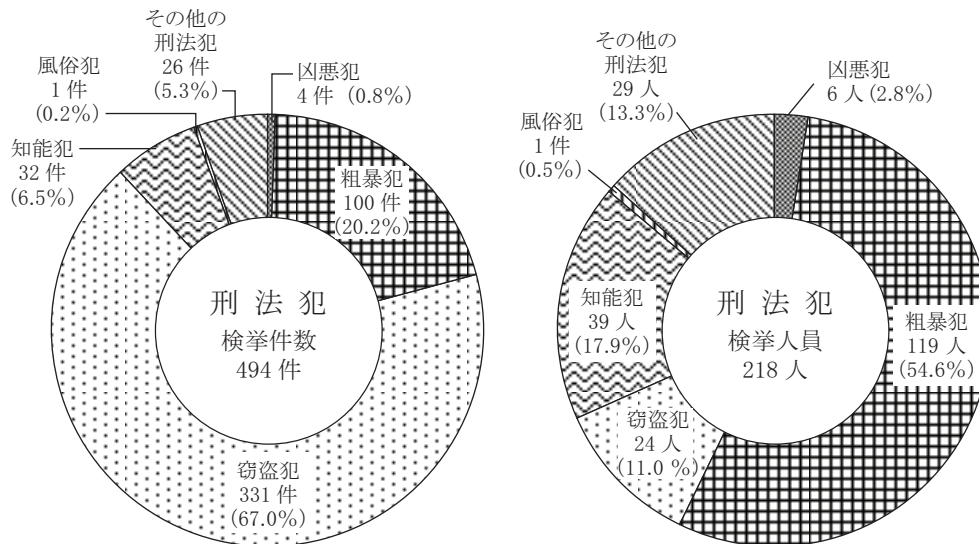
刑法犯における包括罪種別の検挙件数、検挙人員は第37表及び第24図のとおりである。

包括罪種別にみると、検挙件数は「窃盗犯」が増加し、検挙人員は「凶悪犯」、「窃盗犯」「風俗犯」が増加した。

第37表 刑法犯暴力団等犯罪包括罪種別検挙等状況表（前年比較）

罪 種	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和元	平成30	増 減		令和元	平成30	増 減	
			件数	%			人員	%
総 数	494	272	222	81.6	218	236	-18	-7.6
凶 悪 犯	4	4	-	-	6	3	3	100.0
粗 暴 犯	100	101	-1	-1.0	119	127	-8	-6.3
窃 盗 犯	331	88	243	276.1	24	22	2	9.1
知 能 犯	32	55	-23	-41.8	39	61	-22	-36.1
風 俗 犯	1	1	-	-	1	-	1	100.0
そ の 他 の 刑 法 犯	26	23	3	13.0	29	23	6	26.1

第24図 刑法犯暴力団等犯罪検挙件数・検挙人員の構成比



3 特別法犯主要違反法令別検挙状況

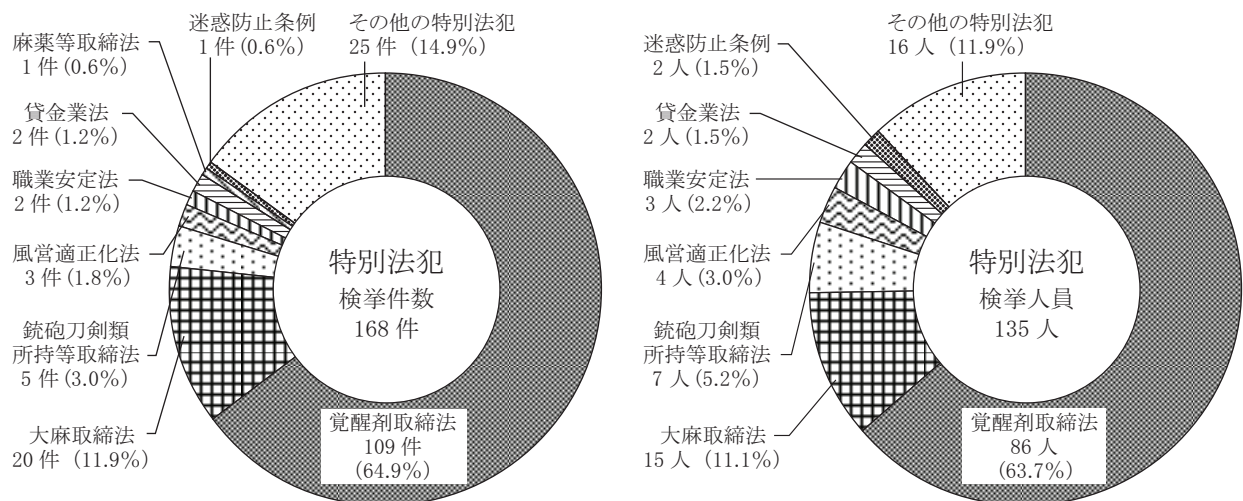
特別法犯における主要違反法令の検挙状況は、第38表及び第25図のとおりである。

「覚醒剤取締法」の検挙件数が109件、86人と最も多く、「大麻取締法」が20件、15人、「銃砲刀剣類所持等取締法」が5件、7人の順で続く。

第38表 特別法犯暴力団等犯罪主要違反法令別検挙等状況表（前年比較）

違反法令	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和元	平成30	増 減		令和元	平成30	増 減	
			件数	%			人員	%
総 数	168	213	-45	-21.1	135	171	-36	-21.1
覚 醒 剤 取 締 法	109	158	-49	-31.0	86	114	-28	-24.6
大 麻 取 締 法	20	16	4	25.0	15	9	6	66.7
銃砲刀剣類所持等取締法	5	4	1	25.0	7	6	1	16.7
風 営 適 正 化 法	3	8	-5	-62.5	4	12	-8	-66.7
職 業 安 定 法	2	3	-1	-33.3	3	4	-1	-25.0
貸 金 業 法	2	2	-	-	2	-	2	200.0
麻 薬 等 取 締 法	1	3	-2	-66.7	-	-	-	-
迷 惑 防 止 条 例	1	3	-2	-67.0	2	4	-2	-50.0
そ の 他 の 特 別 法 犯	25	16	9	56.3	16	22	-6	-27.3

第25図 特別法犯暴力団等犯罪検挙件数・検挙人員の構成比



第5 覚醒剤事犯

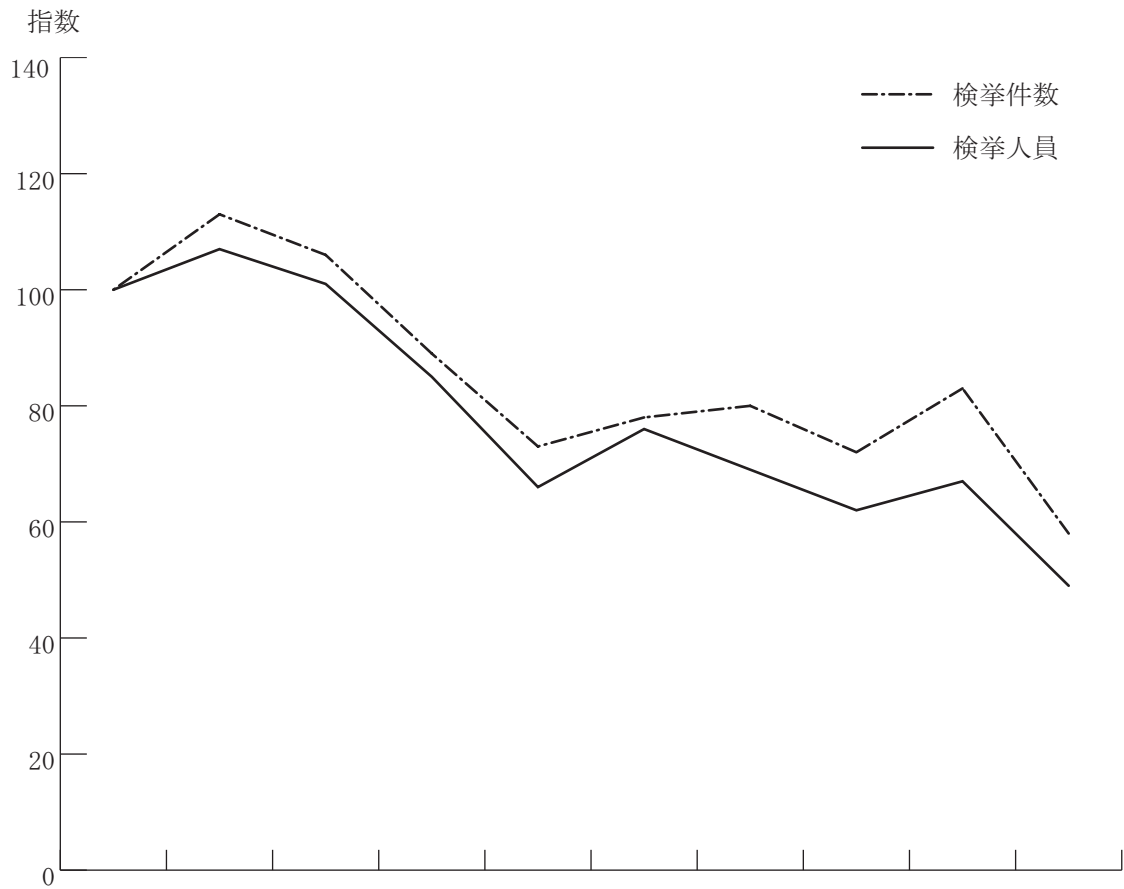
1 覚醒剤事犯検挙状況

特別法犯の取締件数1,747件、検挙人員1,562人のうち「覚醒剤取締法」違反の占める割合は件数は267件（15.3%）、人員は202人（12.9%）である。

検挙件数は対前年比119件（30.8%）、検挙人員は対前年比73人（26.5%）といずれも減少した。

過去10年間の検挙状況の推移は、第26図のとおりである。

第26図 覚醒剤事犯検挙状況の推移（10年間）



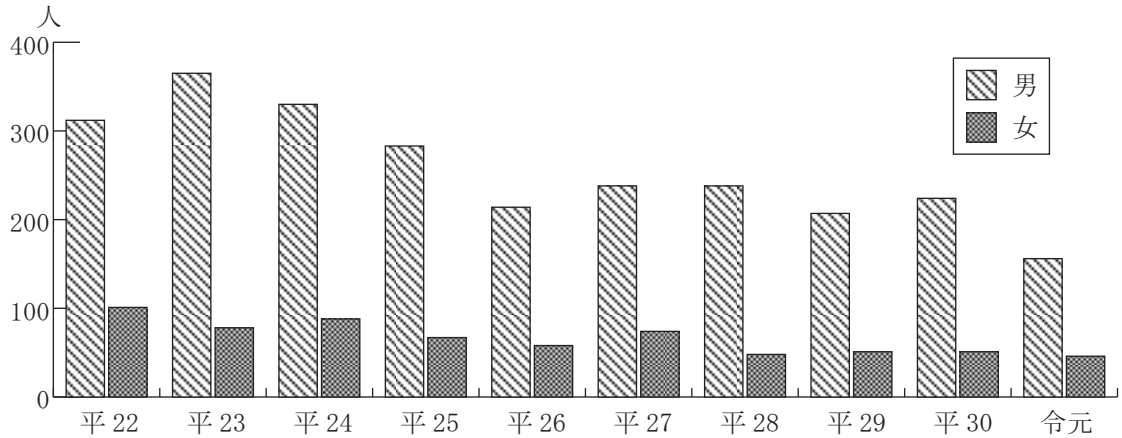
区分	年次	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
	検挙件数	(100)	(113)	(106)	(89)	(73)	(78)	(80)	(72)	(83)	(58)
検挙人員	(100)	(107)	(101)	(85)	(66)	(76)	(69)	(62)	(67)	(49)	
男		312	365	330	283	214	238	238	207	224	156
女		101	78	88	67	58	74	48	51	51	46

注 () 内は、平成22年を100とした指数を示す。

2 男女別検挙状況

覚醒剤事犯における検挙人員の男女別推移は、第27図のとおりであり、総数202人のうち男性は156人で、対前年比68人（30.4%）、女性は46人で、対前年比5人（9.8%）といずれも減少した。

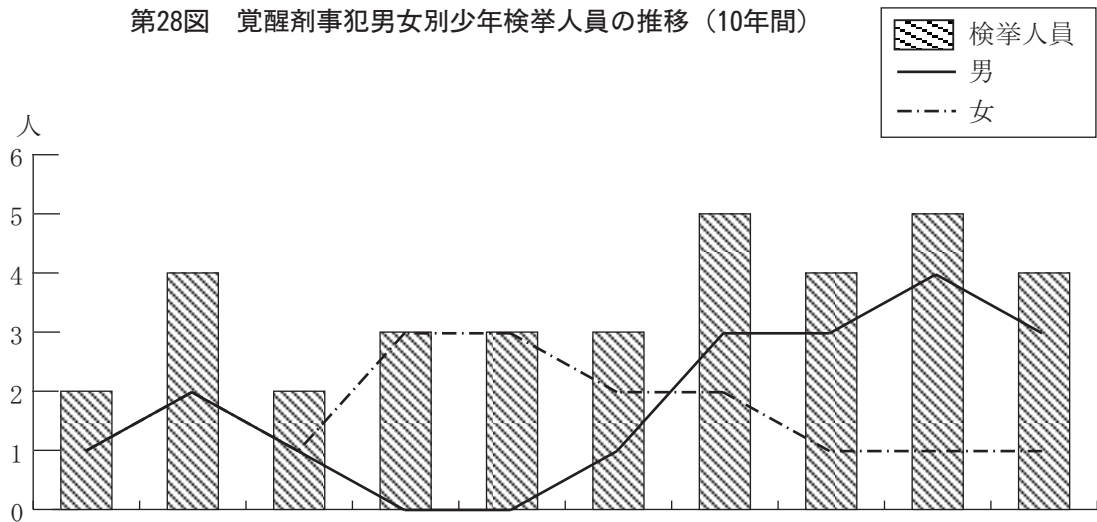
第27図 覚醒剤事犯男女別検挙人員の推移（10年間）



3 少年検挙状況

覚醒剤事犯の検挙人員202人のうち、少年は4人であり、対前年比1人（20.0%）減少した。
過去10年間における検挙人員の推移は、第28図のとおりである。

第28図 覚醒剤事犯男女別少年検挙人員の推移（10年間）



年次	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令元
検挙人員	(100) 2	(200) 4	(100) 2	(150) 3	(150) 3	(150) 3	(250) 5	(200) 4	(250) 5	(200) 4
男	1	2	1	—	—	1	3	3	4	3
女	1	2	1	3	3	2	2	1	1	1

注 （ ）内は、平成22年を100とした指数を示す。

第6 来日外国人犯罪

来日外国人犯罪の検挙件数は461件で、対前年比15件（3.2%）と減少し、検挙人員は323人で、対前年比12人（3.9%）で増加した。

検挙状況は、第39表、第40表のとおりである。

第39表 来日外国人刑法犯罪種別検挙等状況表（前年比較）

罪 種	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和元	平成30	増 減		令和元	平成30	増 減	
			件数	%			人員	%
総 数	255	279	-24	-8.6	176	174	2	1.1
凶 悪 犯	2	5	-3	-60.0	8	3	5	166.7
粗 暴 犯	55	53	2	3.8	61	58	3	5.2
窃 盗 犯	135	161	-26	-16.1	76	85	-9	-10.6
知 能 犯	39	32	7	21.9	13	10	3	30.0
風 俗 犯	3	4	-1	-25.0	3	4	-1	-25.0
そ の 他 の 刑 法 犯	21	24	-3	-12.5	15	14	1	7.1

第40表 来日外国人特別法犯主要違反法令別検挙等状況表（前年比較）

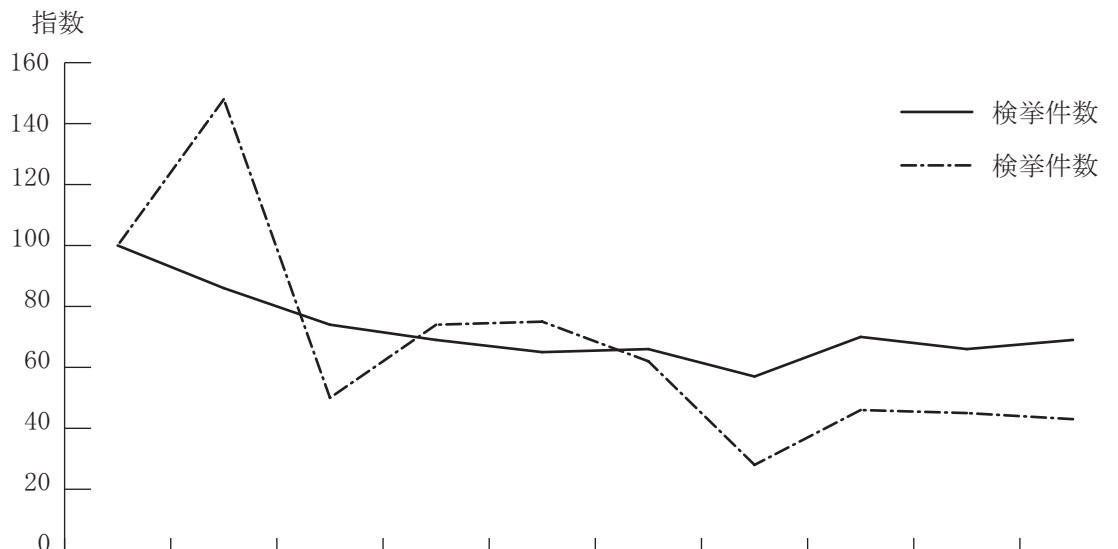
違 反 法 令	検 挙 件 数				検 挙 人 員			
	令和元	平成30	増 減		令和元	平成30	増 減	
			件数	%			人員	%
総 数	206	197	9	4.6	147	137	10	7.3
出入国管理及び難民認定法	150	111	39	35.1	98	61	37	60.7
覚 醒 剤 取 締 法	15	30	-15	-50.0	14	21	-7	-33.3
大 麻 取 締 法	10	19	-9	-47.4	8	10	-2	-20.0
銃砲刀剣類所持等取締法	6	2	4	200.0	6	1	5	500.0
そ の 他 の 特 別 法 犯	25	35	-10	-28.6	21	44	-23	-52.3

注 検挙件数には他機関引継を含む。

出入国管理及び難民認定法	他機関引継人員			
	令和元	平成30	増 減	
			人員	%
	17	25	-8	-32.0

過去10年間における来日外国人犯罪の検挙状況の推移は、第29図、第30図のとおりである。

第29図 来日外国人犯罪検挙状況の推移（10年間）



区分	年次	平22	平23	平24	平25	平26	平27	平28	平29	平30	令和
検挙件数	(指数)	(100)	(148)	(50)	(74)	(75)	(62)	(28)	(46)	(45)	(43)
	実数	1,063	1,573	534	787	800	664	301	492	476	461
検挙人員	(指数)	(100)	(86)	(74)	(69)	(65)	(66)	(57)	(70)	(66)	(69)
	実数	471	403	349	324	307	309	270	331	311	323
刑法犯	検挙件数	717	1,333	366	622	660	534	199	294	279	255
	検挙人員	304	262	211	208	214	212	194	208	174	176
特別法犯	検挙件数	346	240	168	165	140	130	102	198	197	206
	検挙人員	167	141	138	116	93	97	76	123	137	147

注1 ()内は、平成22年を100とした指数を示す。

注2 他機関引継を含む。

第30図 来日外国人犯罪検挙人員国籍別、罪種・違反法令別検挙人員の構成比

